

資料 3
施策評価結果・検討表

平成16年度練馬区施策評価に対する評価

平成17(2005)年3月

平成16年度練馬区行政評価委員会

目 次

	頁
柱 だれもが健やかで生き生きと暮らすために	
<i>政策11 健康づくりの推進</i>	
113 保健医療供給体制の充実・整備	1
<i>政策12 生き生きとした長寿社会の実現</i>	
123 在宅支援サービスの充実	3
<i>政策13 障害者の自立と社会参加の促進</i>	
131 地域生活の支援	5
<i>政策14 保健・医療・福祉の総合的推進</i>	
141 地域ネットワークの育成	7
柱 人と文化を育むために	
<i>政策21 子どもの健やかな成長と家庭への支援</i>	
214 子育ての場と機会の提供	9
<i>政策22 楽しく学び集える学校教育の推進</i>	
222 学校教育の充実	11
<i>政策23 次代を担う青少年の育成</i>	
231 青少年の自主的・創造的活動の支援	13
<i>政策24 人権尊重社会の実現</i>	
241 人権尊重の理解を深めるための教育・啓発	15
<i>政策26 区民文化の継承と創造</i>	
262 区民の自主的文化的活動の支援	17
<i>政策27 生涯学習・スポーツ活動の支援</i>	
271 支援体制の整備	19
柱 みどり豊かな環境にやさしいまちのために	
<i>政策31 循環型社会づくりと地球環境の保全</i>	
311 ごみの発生抑制対策の推進	21
314 地球環境保全のための足元からの行動	23
<i>政策32 生活環境の保全</i>	
321 環境監視体制の質的な充実	25
<i>政策33 みどりと水の保全と創造</i>	
333 ふるさとのみどりの継承	27
<i>政策35 環境保全活動の推進と仕組みづくり</i>	
352 環境学習の体系的促進	29
	頁

柱 安心して快適に暮らせるまちのために

<i>政策41 まちづくりの総合的推進</i>		
412	土地利用の計画的誘導	31
<i>政策42 災害に強い安全なまちづくり</i>		
422	区民の防災行動力の向上と連携の強化	33
<i>政策43 福祉のまちづくりの推進</i>		
432	だれもが利用しやすい施設等の整備	35
<i>政策44 交通体系の確立</i>		
442	道路の体系的な整備	37
<i>政策45 市街地整備の推進</i>		
451	駅周辺の拠点機能の向上	39

柱 産業の創造・育成・成長のために

<i>政策52 中小企業の振興</i>		
521	経営支援の充実	41
522	各種団体の育成と活動への支援	43
523	地域産業の振興	47
<i>政策54 都市農業の振興と農地の保全</i>		
542	都市型農業経営の確立と安定化	51
544	農とのふれあいの推進	53

柱 自立し支え合う関係づくりのために

<i>政策61 参加と協働の推進</i>		
611	参加と協働のシステムづくり	55
<i>政策63 基礎的自治体としての自立</i>		
633	健全な財政運営と財政権の拡充	57
636	職員の能力開発と意識改革	59

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		113 保健医療供給体制の充実・整備		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか				
イ) 目指す状態は明確か		・特に問題は認められない。		
ウ) その他	-			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	休日夜間急患診療事業の1日あたり受診者数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・指標の意図はよくわかる。ただし、この指標を本施策の成果と言えるかどうかはやや疑問である。引き続きデータを収集し、本指標の妥当性を判断することが必要。 ・急患で受診・入院した人の総数に対する「休日夜間急患診療事業の受診者数」を把握することができれば、本施策の成果により近いと言える。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特長	-	
		オ) 総合		
	目標の妥当性		・過去のピーク時の実績(1日あたり30人程度)を目標値とする考え方は理解できる。ただし、この水準は目標値というよりは、整備水準の目安(つまり、30人程度の急患が発生しても対応できるような体制を整えるということ)とすべきである。 ・19年度と22年度は「維持」と表記されているが、これは「30.0」とすべき。	
	実績値の妥当性		・特に問題は認められない。	
	指標	休日夜間急患診療事業満足度		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・指標を補完する指標として意義が認められる。ただし、医療に対する満足度は本施策以外のさまざまな要因に左右されることから、本施策の成果を反映しているとは言いがたい。本指標を生かすとすれば、医療全体の満足度ではなく、「必要な時にすぐに受診できたか」「可能な範囲で適切な診療を受けることができたか」というような面に絞って満足度を把握できるとよい。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特長	-	
オ) 総合				
目標の妥当性		・70%という満足度が適切かどうかを判断する材料がない。また、本指標の実績値は質問の表現によっても大きく左右される。現時点では妥当性を判断することが困難。		
実績値の妥当性	-	・新設の指標であるため実績値は存在しない。		
指標	かかりつけ医の紹介等電話相談件数			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映		・地域の医療機関の連携を示す指標として適切である。ただし、「かかりつけ医を紹介した件数」とする方が、より成果に近いのではないかと。 ・ただし、施策評価表の記述だけでは本指標の意味や内容がわかりにくい。	
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特長	-		
	オ) 総合			
目標の妥当性		・足元の実績値を前提とすれば、概ね妥当な水準が目標値として設定されている。ただし、実績値の今後の推移を見ながら、先の目標を再検討していく必要がある。		
実績値の妥当性		・特に問題は認められない。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		-	・3指標とも新設の指標であるため、指標によって目標の達成度を把握することはできない。	

(評価) : 〇 : 良い(重要) : △ : やや疑問(あまり重要でない) : × : 問題あり(重要でない) : - : 該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
	ア)必要事項は記載されているか	・記載されている。
	イ)記載内容の正確性	・現状では判断ができない。 ・新病院整備経費が含まれているために15年度の経費がそれ以前と比較して大きく膨らんでいる。このように特殊事情によってある年度の経費が大きく増減する場合には、注釈によって説明があるとわかりやすい。
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	・評価指標からは判断することができない。 ・個別事務事業の状況から判断すると、本施策は成果を上げつつはあるものの、まだ十分に成果を上げる段階には到達していないものと思われる。
	イ)判断理由の妥当性	・これまでに達成したことと不十分なことをそれぞれもう少し詳しく説明して欲しい。
	ウ)その他	-
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	・判断の根拠がない。
	イ)判断理由の妥当性	・成果と経費の比較というよりは、事業の進捗状況の説明になっている。 ・本年度の場合、新病院整備経費が大きいため、これを切り離して分析すべき。
	ウ)その他	-
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	・施策の進展が「十分ではなかった」ことの事情や背景を説明して欲しい。
	外部要因 記載内容の妥当性	・外部要因というよりは、行政外部の主体が関わる取り組みを説明するに留まっている。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	・判断の材料は限られているものの、妥当な区分だと思われる。
	イ)判断理由の妥当性	・特に問題は認められない。
	ウ)その他	-
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	・妥当だと考えられる。
	イ)説明の妥当性	・前回の改革・改善案の内容が抽象的であるため、厳密には進捗状況を評価することが難しい。
本年度	ア)評価結果との関連性	・施策評価結果を踏まえた内容となっているものの、既定路線が繰り返されているだけであり、施策評価の結果を反映しているとは言いにくい。
	イ)内容の具体性	・患者アンケート調査を実施するという具体的な内容が含まれている。
	ウ)その他	・新病院についての説明がなされているが、改革・改善案の内容にはそぐわない。 ・医療機関や関係機関の連携が不十分であったと分析されているにも関わらず、事業等を今後も継続させていくという安易な記述となっており改革の方向性が見えない。
(6)その他		
その他		

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		123 在宅支援サービスの充実		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・表現が抽象的である。例えば「自分らしく生活が送れる」とはどのような状態を指すかが明確ではない。 ・現状の記述を前提とすると、成果指標の設定が困難だと予想される。多くの人が具体的なイメージを共有できるような記述に変更することが望ましい。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他	-			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	地域支え合いネットワークが見守ることができる高齢者の数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・指標の意図は成果指標としてふさわしいものである。しかし、実績値の把握方法が「行政サイドで把握している人数(台帳がある)」イコール「見守られている」という考え方にに基づいていることから、指標の意図を十分に反映しているとは言えない。今後この点を改善していくことができれば、有益な指標になるものと思われる。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特性		
		オ) 総合		
	目標の妥当性		・目標値設定の根拠が不明である。見守りの対象となる高齢者が全体でどれくらい存在するかを推計した上で、目標水準を設定することが望ましい。	
	実績値の妥当性		・前述(「指標の性質」欄)の理由により実績値の把握方法には問題がある。また把握している数字は丸めずに実数を示すべきである。さらに「平成15年度」ではなく、評価実施時点の最新の数字を記入することが望ましい。	
	指標	在宅支援サービス利用の有無による要介護認定年齢の差		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・本指標が想定しているような因果関係が存在するかが明らかではないことから、現時点で本指標を成果指標として使用することは時期尚早だと考えられる。ただし、本指標の妥当性が証明されれば、高齢者介護施策において重要な指標となることから、引き続きデータの収集と解析を進めていくことが望ましい。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特性		
		オ) 総合		
	目標の妥当性	-	・現時点では本指標の妥当性自体に疑問があることから、目標の妥当性を判断する段階ではない。	
	実績値の妥当性	-	・評価不能(実績値が存在しないため)	
指標	在宅支援サービス利用者の満足度			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映		・利用者に対して在宅支援サービスに対する満足度を全般的に聞いたとしても、(さまざまな要因が影響している)その結果を解釈することが困難である。利用者の満足度や意識を把握することは必要であるが、本指標を有益なものとするためには、さらに工夫が必要である。(例えば、サービスの特定の側面についての満足度を質問する、個別サービスに対する満足度を個々に把握し、その結果を総合化する、等)一方、利用者だけではなく利用者の家族の意識や満足度を把握することも重要である。	
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特性	-		
	オ) 総合			
目標の妥当性	-	・ベースラインとなるデータが存在しないことから、現時点で目標を設定することは不可能。		
実績値の妥当性	-	・評価不能(実績値が存在しないため)		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
			・3つの指標の意図は明確であり、基本的な方針に大きな問題はない。しかし、いずれの指標も現状では何らかの問題点を抱えていることから、それらを解決することが必要である。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		-	・いずれの指標も目標の達成度を計測できる段階にはない。	

(評価) : 良い(重要) : やや疑問(あまり重要でない) ×: 問題あり(重要でない) - : 該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		・記載されている。
イ)記載内容の正確性		・現状では判断ができない。
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	・現状では、評価指標から施策の成果を判断することは不可能。 ・事務事業のうち重要度が高いと思われる事業の目標達成度は概ね高い。このことから、本施策が一定の成果を上げていると判断できる可能性もあるのではないか。
	イ)判断理由の妥当性	× ・施策評価の運用マニュアルには忠実である。しかし、評価指標による成果の計測ができないとしても、施策の成果を判断することは可能だと考えられるし、またそうすることが必要である。
	ウ)その他	-
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	・現時点では施策の成果が不明であるため、成果と経費の比較を行うことができない。
	イ)判断理由の妥当性	× ・指標によって成果の把握ができないとしても、他の手段で施策の成果を把握し、経費との比較をすべきである。
	ウ)その他	-
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	× ・地域支え合いネットワークについて問題点が指摘されているが、「見守りネットワーク事業」はA評価を得ており、内容に齟齬があるのではないか。
	外部要因 記載内容の妥当性	× ・現在の記載内容は一般的過ぎる。練馬区が施策を進めていく上で現実的な障害となっている要因(逆に後押しする要因)等をより具体的に把握する必要がある。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	・現状では、施策の成果を把握できていないことに起因し、施策の総合的な進展状況に対して評価を下すことが困難である。ただし、指標以外の情報を駆使して施策の成果について判断を下したとすれば、評価区分がAとなる可能性がある。
	イ)判断理由の妥当性	× ・本施策の課題や問題の所在が整理されていない。
	ウ)その他	-
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。
	イ)説明の妥当性	・妥当である。
本年度	ア)評価結果との関連性	・評価結果においては、施策の実施状況や成果の把握が不十分であることが示されており、それに対応した方針が掲げられている。
	イ)内容の具体性	× ・「在宅支援サービスのあり方」を全般的に「検討する」のではなく、論点を明確にした上で検討を進めることが必要である。(その意味で記載内容は具体性を欠いている)
	ウ)その他	-
(6)その他		
その他		・成果指標から施策の成果を把握することができない場合、その施策の評価を放棄するのではなく、入手可能な情報を最大限に活用して評価を行うような運用が望ましい。また成果指標に問題がない場合でも、成果指標「だけ」から施策の成果を判断することには慎重であるべき。

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		131 地域生活の支援		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・特に問題は認められない。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他	-			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	支援費制度における障害者ホームヘルプサービス利用人数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・本施策における基本的な指標だと考えられる。ただし、現状の定義の下では実績値の水準の判断が難しい。指標の定義を「利用人数」ではなく「サービス利用可能者数に占める利用実人数」とする方が、指標の意味が明確になる。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特長	-	
		オ) 総合		
	目標の妥当性		・17年度の目標水準が妥当であるかどうかを判断する材料がない。 ・19年度・22年度についても、できれば具体的な数値で目標を示して欲しい。	
	実績値の妥当性		・特に問題は認められない。	
	指標	緊急一時保護の利用率		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・本施策の成果指標と言えるかというやや疑問であるが、常に把握しておくべき指標である。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特長	-	
		オ) 総合		
	目標の妥当性		・区単事業であることを明記した方が理解しやすい。事務事業の目標が明記されており、納得できる目標設定となっている。	
	実績値の妥当性		・特に問題は認められない。	
指標	福祉のまちづくりに対する区民協力の割合			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映	×	・指標の名前や定義は「割合」となっているが、指標は「人数」で計測されている。 ・本施策の成果とはごく間接的にしか関係していない。 ・むしろ「やさしさ情報ねりまっぷ」の普及度合いや利用者による内容の評価などを指標とする方がよい。	
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特長	-		
	オ) 総合			
目標の妥当性		・協力者を増やすという漠然とした方向を目指すのではなく、「区内の主な店舗、施設の全ての協力」というような目標設定の方が望ましい。		
実績値の妥当性		・特に問題は認められない。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
			・指標、は指標として許容できるものであるが、施策が目指す状態に比べてごく一部の側面しか代表していない。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		-	・3つの指標とも新設であるため、指標から目標の達成度を判断することはできない。	

〔評価〕 : 良好(重要) : やや疑問(あまり重要でない) × : 問題あり(重要でない) - : 該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		・記載されている。
イ)記載内容の正確性		・現状では判断ができない。
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	・成果指標による判断はできないが、個別事業の進展状況からみて、本施策が一定の成果を上げていると推察することができる。
	イ)判断理由の妥当性	・成果指標による判断ができないため、個別事業の状況が説明されている。
	ウ)その他	-
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	・判断の根拠がない。
	イ)判断理由の妥当性	・指定管理者制度を利用するなど事業の効率的な運営に努力していることが説明されているが、経費が適切かどうかは説明されていない。
	ウ)その他	-
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	・施策の進展を阻んでいる要因があれば挙げて欲しい。
	外部要因 記載内容の妥当性	・記載されている行政外部の動きが、本施策にどのような影響を与えるのかを詳しく説明して欲しい。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	・「成果と経費の比較」の項目は留保付きであるが、上記の内容を総合すれば、妥当な評価区分が選ばれていると言える。
	イ)判断理由の妥当性	・妥当である。
	ウ)その他	-
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。
	イ)説明の妥当性	・妥当である。
本年度	ア)評価結果との関連性	・改革・改善案というよりは、これまでの規定路線が示されている。施策評価の結果が良好であったことから、概ね妥当な内容だと考えられる。
	イ)内容の具体性	・概ね問題ないが、特に力を入れるべき点などが明らかになっているとさらによい。
	ウ)その他	・「福祉のまちづくり」の部分は具体的な事業名を記載することが望ましい。(指標では「練馬区福祉情報地図」の作成が「福祉のまちづくり」の具体的な活動として位置づけられているが、「福祉情報地図」は毎年作成されるものではない。ただ単に「福祉のまちづくり」と記述するだけであると、具体的にどのような事業を行うのかわからない。)
(6)その他		
その他		

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		141 地域ネットワークの育成		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・本施策の趣旨に合致した内容であり、しかもわかりやすい表現で示されている。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他	-			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	民生委員・児童委員の連絡調整活動回数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・妥当な指標である。ただし、民生委員によって活動状況に差があることが予想されるので、活動の内容把握も必要である。 ・ただし、「連絡調整活動」の回数を把握するだけでなく、その内容や質を適宜把握することにより、本指標の意義を確認する作業も必要である。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴	-	
		オ) 総合		
	目標の妥当性		・概ね妥当である。	
	実績値の妥当性		・特に問題は認められない。	
	指標	見守りネットワーク事業における連絡会の開催数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・妥当な指標である。 ・ただし、指標と同様、「連絡会」の開催数を把握するだけでなく、その内容や質を適宜把握することが必要である。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴	-	
オ) 総合				
目標の妥当性		・15年度の目標が「450回」に設定されている根拠が不明。 ・19年度・22年度についても具体的な目標水準を設定して欲しい。		
実績値の妥当性		・特に問題は認められない。		
指標	老人クラブにおける「友愛活動」参加人数			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映		・概ね妥当である。ただし、「友愛活動」がひとり暮らし高齢者が望む事業であるかの調査も必要だと考えられる。	
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特徴	-		
	オ) 総合			
目標の妥当性		・目標値の設定方法が不明。 ・19年度・22年度についても具体的な目標水準を設定して欲しい。		
実績値の妥当性		・特に問題は認められない。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
			・3つの指標とも新設であるため、成果指標からは目標の達成度を判断することができない。	

〔評価〕 : 〇: 良好(重要) : △: やや疑問(あまり重要でない) ×: 問題あり(重要でない) -: 該当なし

(3)経費・財源について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)必要事項は記載されているか		・記載されている。	
イ)記載内容の正確性		・現状では判断ができない。	
(4)評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成 果	ア)評価区分の妥当性	・妥当だと考えられる。	
	イ)判断理由の妥当性	・成果指標による判断ができないので、定性的な説明がなされており、これは妥当。 ・「地域ネットワーク形成の取り組みが不十分」であることをさらに詳しく説明して欲しい。	
	ウ)その他	-	
成 果 と 経 費 の 比 較	ア)評価区分の妥当性	・判断の根拠がない。	
	イ)判断理由の妥当性	×	・経費的支援が必要であることの理由が示されているのみである。
	ウ)その他	-	
要 因 分 析	内部要因 記載内容の妥当性	・ネットワーク形成を阻む内部要因が的確に示されている。	
	外部要因 記載内容の妥当性	・「町会・老人クラブの組織率低下」という指摘は、本施策を進めていく上で重要な外部要因である。	
総 合 評 価	ア)評価区分の妥当性	・妥当だと考えられる。ただし、施策が始まったばかりであることを考えれば、現時点で目に見える成果は上がっていないものの、施策は「良好に進んでいる」とする見方もできるのではないかと。	
	イ)判断理由の妥当性	・概ね妥当である。	
	ウ)その他	-	
(5)改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
前 回	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。	
	イ)説明の妥当性	・改革・改善案の内容に沿った説明となっていない。	
本 年 度	ア)評価結果との関連性	・妥当である。	
	イ)内容の具体性	・具体的な案が示されている。	
	ウ)その他	・具体的な案が示されているが、規定路線の内容が示されているだけではないか。施策評価の結果を受けて規定路線の修正や変更があったとすれば、それを明確に示して欲しい。	
(6)その他			
その他			

〔評価〕 :妥当(問題なし) :やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		214 子育ての場と機会の提供		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・子どもに居場所を与えることが主眼なのか、あるいは居場所における活動によって何らかの効果(例えば学習効果)を上げることが主眼なのかははっきりしない。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他	-			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	児童館の1日あたりの来館者数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映 イ) わかりやすさ ウ) 重要性 エ) 区の特長 オ) 総合	-	・「子どもが児童館に来館する」＝「子どもに居場所を提供している」と考えれば、本指標は施策の目指す状態の一端を示していると言える。
	目標の妥当性		・実績値の推移をみる限り、定員を目標値とするのは現実的ではない。 注: 新設の指標であり、本来は15年度以前の目標は空欄となるべきである。ただし本指標の場合、定員を目標水準とする考え方は従来から暗黙のうちに存在したと考えられることから、15年度以前に遡って目標が設定されていることを問題視しない(以下の2指標も同様)。	
	実績値の妥当性		・特に問題は認められない。	
	指標	保育所入所希望受入率		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映 イ) わかりやすさ ウ) 重要性 エ) 区の特長 オ) 総合	-	・保育所は本施策が目的とする「居場所の提供」の「居場所」に当たるのかどうか疑問。 ・本指標の定義では、待機児童数の分だけ指標(受入率)が100%を下回ることになる。この場合、単に「待機児童数」を指標とする方がよりわかりやすいのではないか。
	目標の妥当性		・受入率の目標が100%であるということは、待機児童数をゼロにするということであり、納得できる目標設定である。	
	実績値の妥当性		・特に問題は認められない。	
	指標	学童クラブ入会希望受入率		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映 イ) わかりやすさ ウ) 重要性 エ) 区の特長 オ) 総合	-	・指標と同様、待機児童数だけ指標が100%を下回る設定となっているので、「待機児童数」(あるいは1クラブ当たりの待機児童数)を指標とする方が、よりわかりやすいと考えられる。
	目標の妥当性		・受入率の目標が100%であるということは、待機児童数をゼロにするということであり、納得できる目標設定である。	
	実績値の妥当性		・特に問題は認められない。	
	指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点
		目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント
				・設定された3つの指標はいずれも「居場所の提供」に関連するものであり、居場所を与えることがもたらす成果に関わる指標が欠けている。
			・目標はいずれの指標においても達成されていない。ただし、指標については、目標水準の設定に問題があると考えられる(指標において既述)。	

〔評価〕 : 良好(重要) : やや疑問(あまり重要でない) x: 問題あり(重要でない) -: 該当なし

(3)経費・財源について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)必要事項は記載されているか		・記載されている。	
イ)記載内容の正確性		・現状では判断できない。	
(4)評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア)評価区分の妥当性	・評価指標のみから判断する限りでは、妥当な評価区分が選択されている。ただし、指標の代表性に問題があることから、本施策を3つの指標だけで評価することについては疑問の余地がある。	
	イ)判断理由の妥当性	・3つの指標の状況を正確に反映した説明がなされている。 ・ただし本施策における真の成果は、場の提供を通じて子どもが「健全に成長」しているかどうかではないか。	
	ウ)その他	-	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	・費用を投入して受入可能数を増やしたにもかかわらず目標を達成できなかったことは事実であるが、経費に対する成果が適切であるかどうかを判断する根拠が存在しない。	
	イ)判断理由の妥当性	・「B」を選択した理由がわかりやすく示されている。しかし、成果と経費の対比にはなっていない。	
	ウ)その他	-	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	・「十分な受入枠」を確保できない内部の事情や背景を説明して欲しい。	
	外部要因 記載内容の妥当性	×	・保育サービスへの需要増大の一般的な説明にはなっているが、受入可能数を増やしたにも関わらず待機児童数が顕著に減少しないことの原因にはなっていない。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	・学童クラブや保育園の待機児童を解消していないという意味では適切な評価区分が選ばれている。その一方で、これらの施設における受入能力を拡大させていることから、より多くの子どもに居場所を提供していることも事実である。本施策の成果を何に注目して評価するのかについて、慎重な考慮が必要である。	
	イ)判断理由の妥当性	×	・3つの指標の推移のみに着目した説明になっているが、本施策の成果はこの3指標だけで判断できるものではない。
	ウ)その他	-	
(5)改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
前回	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。	
	イ)説明の妥当性	×	・「改革・改善」の具体的な内容は何なのか、また実際にそれが行われたのか、等を判断することができない。
本年度	ア)評価結果との関連性	・学童クラブや保育所の受入可能人数を増やすという方針が示されており、評価結果の全般的な論調と整合している。	
	イ)内容の具体性	・具体的な案が示されている。	
	ウ)その他	・具体的な案が示されているが、規定路線の内容が示されているに過ぎないように思われる。施策評価の結果、何を新しく認識し、その認識に対応して新たにどのような対策が検討されたのかがわからない。	
(6)その他			
その他		・児童館、保育所、学童クラブ等は、希望者のニーズを踏まえて総合的に再編成することが必要だと考えられる。	

〔評価〕 :妥当(問題なし) :やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		222 学校教育の充実		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・施策の性格上仕方ない面もあるが、あまりに幅広い内容が含まれ過ぎている。内容は理解できるものであるが、施策の成果を把握することは極めて難しいと考えられる。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他	-			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	少人数授業、習熟度別授業、T・T実施校の割合		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質		・適切な指標である。 ・少人数授業、習熟度別授業、T・T実施のいずれかを満たしていれば、本指標の対象としてカウントされるのか？	
	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区特性	-		
	オ) 総合			
	目標の妥当性		・現状の水準を踏まえれば、当面は100%ではなく、より現実的な水準を目標とすべき。	
	実績値の妥当性		・特に問題は認められない。	
	指標	不登校児童・生徒数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質		・常に把握しておくべき基本的指標であり、本施策の指標としても妥当性がある。 ・不登校児童・生徒を減らしていくことは重要であるが、むしろ不登校児童・生徒に対する対応を重視していくという施策の方向性もある。	
	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区特性	-		
	オ) 総合			
目標の妥当性	×	・成果指標として掲げる以上、具体的な目標値を示すことが必要である。		
実績値の妥当性		・特に問題は認められないが、不登校児童・生徒の定義を統一し、周知することが必要。(必要に応じて区独自の定義を採用することも検討する)		
指標	学校評議員設置件数			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質		・施策の目指す状態を考慮すると、それ程重要性の高い指標だとは考えにくい。 ・本指標を生かす場合は、「学校評議員を設置している学校の割合」とすべき。		
ア) 成果の反映				
イ) わかりやすさ				
ウ) 重要性				
エ) 区特性	-			
オ) 総合				
目標の妥当性		・現状の水準を踏まえれば、当面は100%ではなく、より現実的な水準を目標とすべき。		
実績値の妥当性		・特に問題は認められない。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
			・3つの指標のうち2つの指標は、定義に変更があったものの、継続して利用されているもの。この2つの指標は確実に望ましい方向に向かっている。	

〔評価〕 : 良好 (重要) : やや疑問 (あまり重要でない) × : 問題あり (重要でない) - : 該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		・記載されている。
イ)記載内容の正確性		・現状では判断ができない。
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成 果	ア)評価区分の妥当性	・「目指す状態」の内容が幅広いため、施策の成果を判断することが困難である。 ・少人数授業、習熟度別授業などによる具体的な成果を示して欲しい。
	イ)判断理由の妥当性	・不登校児童・生徒の減少は施策対応によるものなのか、あるいはそれ以外の要因によるものなのかを分析する必要がある。
	ウ)その他	-
成 果 と 経 費 の 比 較	ア)評価区分の妥当性	・判断の根拠がない。
	イ)判断理由の妥当性	・成果と経費の対比の説明になっていない。
	ウ)その他	-
要 因 分 析	内部要因 記載内容の妥当性	× ・一般的な内容が説明されているだけである。 ・推進する行政や学校側として何が問題になっているかを説明すべき。
	外部要因 記載内容の妥当性	× ・学校の状況が説明されているが、学校は行政「内部」ではないか。
総 合 評 価	ア)評価区分の妥当性	・「目指す状態」の内容が幅広いため、施策の成果を判断することが困難である。 ・評価区分から判断する限りでは、区の教育は概ね良好であり、これまでの路線で対応していけばよいということになるが、本当にその通りか？
	イ)判断理由の妥当性	× ・「良好に進んでいる」ことの説明としては不十分である。
	ウ)その他	-
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前 回	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。
	イ)説明の妥当性	・妥当である。
本 年 度	ア)評価結果との関連性	・「少人数、習熟度別、T・T実施」と「学校評議員」に注目した内容となっており、その意味では施策評価の内容を踏まえている。しかし、その他の側面があまりに捨象されていないか。
	イ)内容の具体性	・既定路線が改めて説明されているだけであり、具体的な内容とは言えない。
	ウ)その他	-
(6)その他		
その他		・本施策はその対象があまりに幅広いため、施策の成果を把握することが困難になっている。本施策を細分化するか、特定の部分を取り出して施策として独立させる等の対応が必要である。

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		231 青少年の自主的・創造的活動の支援		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか				
イ) 目指す状態は明確か		・概ね妥当である。		
ウ) その他	-			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	練馬区青少年育成地区委員会事業への参加者数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・基本的には妥当な指標だと考えられる。 ・ただし、13年度から15年度にかけての実績が大きく減少していることから、本指標を成果指標として用いることに疑問なしとはしない。今後は実績値の推移もみながら、本指標の妥当性を検討していくべき。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特長	-	
		オ) 総合		
	目標の妥当性	×	・17年度以降の目標値を具体的な数字で示すべき。 ・「青少年人口の1.5倍」という水準は現状に2%程度上乗せた水準に過ぎない。目標としては消極的ではないか。	
	実績値の妥当性		・特に問題は認められない。	
	指標	ジュニアリーダー養成講習会における中学生の修了者数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・妥当である。 ・本指標に併せて、「ジュニアリーダー養成講習会を終了した者のうち、実際にリーダーとして活躍している者の割合(または人数)」もできれば把握して欲しい。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特長	-	
オ) 総合				
目標の妥当性		・これまでの実績では、毎年100人近く確保していることから、19年度以降についてはもう少し積極的な目標設定を期待したい。		
実績値の妥当性		・特に問題は認められない。		
指標	区が青少年委員に委託している子ども会事業における青少年スタッフの参加率			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映		・青少年スタッフが参加している事業の割合を指標としているが、望ましくは参加している青少年スタッフの数を指標として欲しい。	
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特長	-		
	オ) 総合			
目標の妥当性	-	・足元の実績が不明なので、17年度以降の目標値の妥当性を判断することができない。		
実績値の妥当性	-	・実績値がないため判断ができない。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
			・バランスよく指標が設定されている。個々の指標の妥当性を引き続き精査して欲しい。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
			・3指標とも新設なので、成果指標からは目標の達成度を評価することができない。	

:(評価) :良い(重要) :やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		・記載されている。
イ)記載内容の正確性		・現状では判断ができない。
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成 果	ア)評価区分の妥当性	・概ね妥当である。
	イ)判断理由の妥当性	・成果指標だけで判断するのではなく、施策に関わる定性的な情報も考慮することが必要。
	ウ)その他	-
成 果 と 経 費 の 比 較	ア)評価区分の妥当性	・経費が「適切である」かどうかの根拠は乏しいが、効率的に実施されている施策であるといえる。
	イ)判断理由の妥当性	・わかりやすい説明となっている。
	ウ)その他	-
要 因 分 析	内部要因 記載内容の妥当性	・大きな問題はないが、施策の推進上の課題などがあれば記載して欲しい。
	外部要因 記載内容の妥当性	×
総 合 評 価	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。
	イ)判断理由の妥当性	・妥当であるが、本施策が「良好に進んでいる」という現状をもう少し丁寧に説明して欲しい。
	ウ)その他	-
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前 回	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。
	イ)説明の妥当性	・改革・改善案に即した説明がなされている。
本 年 度	ア)評価結果との関連性	・妥当である。
	イ)内容の具体性	・妥当である
	ウ)その他	-
(6)その他		
その他		

〔評価〕 ○：妥当（問題なし） △：やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×：妥当性を欠く（問題あり） -：該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		241 人権尊重の理解を深めるための教育・啓発		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・妥当である。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他	-			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	人権について意識している区民の割合		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・本施策の成果に関連する指標といえるが、ただ単に人権を意識しているかどうかを把握するだけでは、政策的に意味のある指標とは言えない。質問の仕方に工夫が必要である。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特性	-	
		オ) 総合		
	目標の妥当性	×	・同様の指標の全国平均や他地域の水準を参考にして目標を設定すべき。	
	実績値の妥当性		・特に問題は認められない。	
	指標	人権が守られていると思う区民の割合		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・重要な指標ではあるが、「現在のわが国で人権が守られていると思うか」という質問に対する回答であることから、区政との関連性は希薄である。 ・より意味のある指標とするためには、「日常生活においてあなた自身の人権が守られているか」という質問に変更すべき。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特性	-	
		オ) 総合		
	目標の妥当性	×	・足元の実績値があることから、具体的な目標値を設定すべき。	
	実績値の妥当性		・特に問題は認められない。	
指標	人権啓発事業、人権問題学習講座等の累積参加者数の区の人口に対する割合			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映		・妥当な指標である。 ・さらに可能であれば、講演会等への参加者に対してアンケートを実施してリピーター率を推計することにより、重複してカウントされている人数を省く努力をして欲しい。	
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特性	-		
	オ) 総合			
目標の妥当性		・妥当である。		
実績値の妥当性		・特に問題は認められない。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
			・一定の代表性を確保していると言えるが、人権侵害の実態を表す指標があるとよい。 ・個々の指標の定義や把握方法についてはさらに工夫が必要。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		-	・目標の達成度を計測できるのは指標 のみである。他の2指標は新設。	

〔評価〕 : 良好 (重要) : やや疑問 (あまり重要でない) × : 問題あり (重要でない) - : 該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		・記載されている。
イ)記載内容の正確性		・現状では判断ができない。
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	・「成果が上がっていない」と判断することは妥当であるが、区の施策だけによって成果を上げることができるかは大いに疑問である。
	イ)判断理由の妥当性	・特に問題はない。
	ウ)その他	-
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	・成果と経費の比較を行うことはできないが、経費や効率性の面で問題視すべき施策だとは考えられない。
	イ)判断理由の妥当性	・概ね妥当である。
	ウ)その他	-
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	・厳密には内部要因の説明とはなっていないが、施策面の最近の変化が詳しく説明されており、施策を理解する上で助けとなる。
	外部要因 記載内容の妥当性	・妥当である。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。
	イ)判断理由の妥当性	・概ね妥当である。
	ウ)その他	-
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。
	イ)説明の妥当性	・「改革・改善」の内容は抽象的であるが、施策対応の詳しい内容が示されている。
本年度	ア)評価結果との関連性	・適切である。
	イ)内容の具体性	・具体的な案が示されている。
	ウ)その他	-
(6)その他		
その他		・人権尊重の重要性は論を待たないが、区の施策の効果は限られている。施策のあり方を十分に検討するべきである。このような施策の場合、無理に成果の達成を目指すのではなく、区が人権尊重にコミットする姿勢を示すこと自体が重要だとも考えられる。

〔評価〕 : 妥当 (問題なし) : やや疑問・情報不足等により判断が困難 x : 妥当性を欠く (問題あり) - : 該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		262 区民の自主的文化活動の支援	
(1) 施策の目指す状態について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア) 施策の目指す状態は良いか		・全体としては概ね妥当な内容である。ただし、現状では「文化」の定義が明確ではない。現在進められている文化芸術の振興に関する基本方針の条例の制定に伴い、今後文化の定義を明確化した施策の目指す状態を設定することが望ましい。	
イ) 目指す状態は明確か			
ウ) その他	-		
(2) 成果指標について			
指標別の評価	指標	文化施設のイベント参加者数	
	視点	評価	コメント・改善点
	指標の性質		・このタイプの指標は、イベント開催数を増やすことや集客力の大きいイベントを開催することによって指標の実績値を上げることができる。イベント開催数を増やしたり集客力の大きいイベントを開催したりすることが、区民が「気軽に、身近に文化に触れることができ」る状態につながるかという疑問である。
	ア) 成果の反映		
	イ) わかりやすさ		
	ウ) 重要性		
	エ) 区の特長	-	
	オ) 総合		
	目標の妥当性		・文化センターが休館することにより17年度の目標が15年度の85%減に設定されているが、他の施設に振り替えて開催されるイベントをカウントできれば、それ程大幅な減少にはならないのではないかと。 ・22年度の目標値も具体的な数値で示すべき。
	実績値の妥当性		・妥当である。
	指標	貸し展示室の稼働率	
	視点	評価	コメント・改善点
	指標の性質		・区民の自主的文化活動の活発度を示す指標として一定の妥当性がある。ただし、施設の利用は土日等に集中する傾向があることから、稼働率が一定水準に達すると、さらにこれを上げることは難しくなる。このことから、成果指標としては理想的とは言えない。
	ア) 成果の反映		
	イ) わかりやすさ		
ウ) 重要性			
エ) 区の特長	-		
オ) 総合			
目標の妥当性	×	・12、13年度の実績値が90%を超えているにもかかわらず目標値が90%に固定されている理由がわからない。	
実績値の妥当性		・妥当だと考えられるが、15年度の稼働率が65%まで落ち込んだ理由が不明。	
指標			
視点	評価	コメント・改善点	
指標の性質			
ア) 成果の反映			
イ) わかりやすさ			
ウ) 重要性			
エ) 区の特長			
オ) 総合			
目標の妥当性			
実績値の妥当性			
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点
			・現在設定されている2指標だけでは、市民が日常的に文化に親しんでいるかどうかをとらえることができない。
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント
			・1勝1敗であり、しかも1敗の方は大敗である。

〔評価〕 : 〇 : 良い (重要) : △ : やや疑問 (あまり重要でない) × : 問題あり (重要でない) - : 該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		・記載されている。
イ)記載内容の正確性		・「利用者負担」がゼロと記載されているが、イベントの入場料や施設の利用料は含まれないのか。
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	× ・2つの指標から判断する限りでは「成果が上がっている」とは言えない。指標以外の情報が不足しているため確かなことは言えないが、「成果が上がっている」と判断できる根拠は示されていない。
	イ)判断理由の妥当性	× ・イベント参加者数の増加と美術館の展示室の稼働率が高いことが判断の理由として示されているが、施策が成果を上げていることの根拠としては弱い。
	ウ)その他	-
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	・判断の基準が存在しないが、少なくとも成果と経費の比較が「適切である」とする根拠は存在しない。
	イ)判断理由の妥当性	・成果と経費の比較が適切であることの説明になっていない。
	ウ)その他	-
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	× ・内部要因ではなく、個別事情が説明されているに過ぎない。
	外部要因 記載内容の妥当性	× ・あまりに一般的な内容であり、本施策の評価には参考にならない。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	× ・「良好に進んでいる」ことを示す根拠がどこにも示されていない。
	イ)判断理由の妥当性	・イベントに参加者を得ている実態について触れているが、区民の自主的な文化活動に関連する説明がない。
	ウ)その他	-
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。
	イ)説明の妥当性	・妥当である。
本年度	ア)評価結果との関連性	× ・施策評価の結果が生かされていない。
	イ)内容の具体性	・条例・基本方針を制定するという具体的な取り組みには触れているが、本施策との関連性が明確ではない。
	ウ)その他	-
(6)その他		
その他		

〔評価〕 : 妥当(問題なし) : やや疑問・情報不足等により判断が困難 × : 妥当性を欠く(問題あり) - : 該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		271 支援体制の整備		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・わかりやすくかつ妥当な内容である。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他	-			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	区立図書館の区民1人当たりの図書数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・基本的な指標であり、計測の意義がある。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴	-	
		オ) 総合		
	目標の妥当性		・実績値の推移に照らして妥当な水準が目標として設定されている。	
	実績値の妥当性		・妥当だと考えられる。	
	指標	総合型地域スポーツクラブ(SSC)の会員数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・SSCは区として力を入れている新しい取り組みであることから、注目していくべき指標である。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴		
		オ) 総合		
	目標の妥当性		・この場合、当事者である各SSCに聴取して目標値を設定するという手法は適切である。	
	実績値の妥当性		・妥当だと考えられる。	
指標	生涯学習団体の後援名義等使用数			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映		・指標の意味や意義がわかりにくい。本指標の意義は認められるが、もう少し直接的に施策の成果に関係する指標はないか。	
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特徴	-		
	オ) 総合			
目標の妥当性		・実績値の推移に照らして妥当な水準が目標として設定されている。		
実績値の妥当性		・妥当だと考えられる。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
			・施策の対象とする範囲が広いので、そもそも3つの指標で代表させることに無理がある。 ・その中で、妥当性の高い指標が設定されていると言える。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		-	・3つの指標とも新設であるため、目標の達成度を評価することができない。	

〔評価〕 : 〇: 良好(重要) : 〃: やや疑問(あまり重要でない) ×: 問題あり(重要でない) -: 該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		・記載されている。
イ)記載内容の正確性		・判断の根拠がない。
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成 果	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。
	イ)判断理由の妥当性	・指標の側面に即した説明がなされている。
	ウ)その他	-
成 果 と 経 費 の 比 較	ア)評価区分の妥当性	・判断の根拠がない。
	イ)判断理由の妥当性	・成果と経費を関連づけて説明しようとする努力がみられる。
	ウ)その他	-
要 因 分 析	内部要因 記載内容の妥当性	・妥当である。
	外部要因 記載内容の妥当性	・概ね妥当である。可能であれば、自主性のある団体が育っていない理由も分析して欲しい。
総 合 評 価	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。
	イ)判断理由の妥当性	・妥当である。
	ウ)その他	-
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前 回	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。
	イ)説明の妥当性	・妥当である。
本 年 度	ア)評価結果との関連性	× ・方向性としては、施策評価の結果を踏まえているものの、経費面がネックとなっていることに対する対策が示されていない。
	イ)内容の具体性	・内容は具体的である。
	ウ)その他	-
(6)その他		
その他		

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		311 ごみの発生抑制対策の推進		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・これまで施策312との区別が見え辛かったのが、今回の改訂でより具体的に記述されるようになった。次回、312の施策評価表を検討する際は、双方の整合性に注意が必要。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	区民1日1人当たりのごみの排出量		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・これまでごみ収集量の「減少率」となっていたものが、排出量になったのがよい。まずは排出量が明示されるべきで、また、それから減少率を見るのは容易だから。 ・可能であれば、ごみの内訳を参考として示されるとよい。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴	-	
		オ) 総合		
	目標の妥当性		・17年度以降の目標値が過去の実績等に基づいて早期に数値を設定し、その達成に向けての事務事業が計画されるべきである	
	実績値の妥当性			
	指標	区の清掃リサイクル事業における資源化率		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・単に資源回収量でなく、資源化率としたことで、ごみの発生抑制をより反映させることができるので、よい。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴	-	
		オ) 総合		
	目標の妥当性		・長期的な数値目標は困難であっても、今年度の実績に基づく、次年度の目標設定くらいはできないだろうか。	
	実績値の妥当性			
指標	小学校4年生における環境学習受講率			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映		・事務事業No.3の活動指標(受講学校数)を総学校数で割ったものであり、成果指標とは言えない(役割1で指摘済み)。この事務事業の成果指標を取るのが難しいのはともかく、施策全体の成果指標にするのは難あり。	
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特徴	-		
	オ) 総合			
目標の妥当性		・目標が100%受講率なのでこれ以上は高く設定できないので、10年間目標が一定なのはやむを得ない。		
実績値の妥当性		・活動指標ゆえに測定は容易・正確である。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
			・ と については本施策が目指す状態を表す指標の代表性は十分にある。 ・ については、環境に関する啓発事業の指標の一つで取り上げられているが、逆に指標の目指す状態とは少し遠いものになっている。 ・ と については今回の施策評価からの新規指標であるため、目標値が設定されておらず、当該年度の達成度は判断できない。 については、順調に達成度合いを増している。	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) - :該当なし

(3) 経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		
イ)記載内容の正確性		
(4) 評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	× ・ は当該年度の目標値が設定されていないが、13年度と比較して数値が減少していることから、A評価とは判断しかねる。
	イ)判断理由の妥当性	・ と については、13年度から改善された要因が説明されているが、 の資源化が改善されなかった理由が述べられていない。
	ウ)その他	-
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	・ 事業費・人件費ともに13年度より減少しているが、指標 を除き、成果は上がっている。
	イ)判断理由の妥当性	・ ただし、唯一事業費が増えている事業「清掃・リサイクルの普及啓発事業」では成果が達成されておらず、その説明がないのは不十分。
	ウ)その他	-
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	・ 成果の達成に繋がる要因が挙げられている。(が、欲を言えば、「区民の参加しやすい」が何を示すのかより具体的であるとよい。)
	外部要因 記載内容の妥当性	
総合評価	ア)評価区分の妥当性	・ 成果と成果と経費の比較のどちらもA評価となっている。
	イ)判断理由の妥当性	× ・ は成果評価の根拠であり、 は要改善事項である。内容はよいが、書くべき欄が違う。ここでは、成果と成果と経費の比較の両方がA評価であったため、総合評価はAというようにシンプルに書けばよい。
	ウ)その他	-
(5) 改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	
	イ)説明の妥当性	・ 前回の改善案の内容が具体性に欠けるので、それに対応させて方策を取るだけでなく、記述することも難しくなっている。
本年度	ア)評価結果との関連性	・ と はよいと思うが、 は結果に関わらず、一般的な改善案となっている。
	イ)内容の具体性	× ・ と は、どの事業を改善するのが具体的になっていない。 ・ 「…を検討する」だけでは、改善案を受けた部署が対応策の実現するまでのコミットメントとならない。
	ウ)その他	・ 前回の改革案のうち、達成できなかったものがフォローされていない。
(6) その他		
その他		

〔評価〕 : 妥当(問題なし) ; やや疑問・情報不足等により判断が困難 × : 妥当性を欠く(問題あり) - : 該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		314 地球環境保全のための足元からの行動		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		「目指す状態」の説明に「京都議定書」を入れた方がよい。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	電気使用に伴う区民1人当たり二酸化炭素排出量		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映	指標とその定義については明確であり良い。	
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特長		
		オ) 総合		
	目標の妥当性	×	22年度の目標は理解できるが、途中年度が設定されていない、達成率の定義がわかりにくい、の2点が問題であり、改良が必要。	
	実績値の妥当性			
	指標	区内住宅用太陽光発電装置設置件数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映	基本的には良いが、NEFによる補助制度に依存した指標となっている点に注意が必要。 補助制度が廃止された場合、件数が把握可能か。 廃止された場合、明らかに減少すると思われるが対策はあるのだろうか。	
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特長		
オ) 総合				
目標の妥当性		これまでの傾向の外挿であるが、積極的な目標と言えよう。		
実績値の妥当性				
指標	区の業務より発生する温室効果ガスの総排出量			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映	指標としては良いが、区の業務より発生する温室効果ガスの総排出量を抑制することが、施策314につながる事務事業に位置づけられていないので、施策の「成果の反映」と言いがたい。(事務事業として位置づければ良い。)		
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特長			
	オ) 総合			
目標の妥当性		上位計画(練馬区環境配慮実行計画)の設定値(3%削減)を用いているが、若干でも良いのでその意味についての説明があると良い。(この指標だけ見た人にはわかりにくい)		
実績値の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
			H14年度評価に比べると改善され、良くなった。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
			指標、は目標値以上であるが、指標の達成率が極端に悪い状況であり、全体を通して良好とはいえない。	

〔評価〕 : 良い(重要) : やや疑問(あまり重要でない) × : 問題あり(重要でない) - : 該当なし

(3)経費・財源について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか			
イ)記載内容の正確性			
(4)評価について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性		CO2排出量の増加は全国的傾向ではあるが、目標として掲げている以上、やむを得ない。
	イ)判断理由の妥当性		この文脈であれば指標の達成率(100%)にもとづいた評価となるべきだが、「1990年度比で38%増」を判断理由として用いており、整合がとれていない。(指標の達成率を変更することを提案したい。)
	ウ)その他	-	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性		
	イ)判断理由の妥当性		この説明では妥当性は判断できない。(わからない)
	ウ)その他	-	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性		記述内容に特に問題はない。
	外部要因 記載内容の妥当性		同上
総合評価	ア)評価区分の妥当性		妥当である。
	イ)判断理由の妥当性		
	ウ)その他	-	
(5)改革・改善案について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性		「練馬区民環境行動指針」が区民・事業者自身の手で策定されたことは評価できる。体系の整理について、「今後検討」ではなく、検討の時期を明確に記述した方がよい。
	イ)説明の妥当性		
本年度	ア)評価結果との関連性		CO2排出量の増加に打つ手が少ないことが要因分析(外部要因)で述べられているが、京都議定書発効に伴う、国などの対応行動に注意し、区として何が出来るかを追究していただきたい。
	イ)内容の具体性		「区民環境行動指針」の具体的推進を期待したい。
	ウ)その他	-	
(6)その他			
その他			

〔評価〕 : 妥当(問題なし) : やや疑問・情報不足等により判断が困難 × : 妥当性を欠く(問題あり) - : 該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		321環境監視体制の質的な充実		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		環境測定と監視体制の充実のみに留まらず、測定・調査結果に基づき対策立案が行われることまで明確にしている点がよい。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	水質・大気環境基準適合項目数及び騒音の環境基準適合率		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		環境問題において、汚染物質の環境基準の達成は、区民の安全な生活環境のために必要最低限の項目であり、環境施策において重要な成果指標と考えられる。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特長		
		オ) 総合		
	目標の妥当性		常時すべての測定地点で環境基準の達成を目標としており、妥当である。	
	実績値の妥当性			
	指標	大気汚染測定機器の稼働時間(法定測定時間は6000時間 気象4項目を除く21台を対象)		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		区の取り組みとして監視体制の質的な充実を示す活動指標であると理解される。区が自主的に法定を上回る水準で測定している点は区の特長として評価した。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特長		
オ) 総合				
目標の妥当性		有効測定時間を最大にすることが、目標として適切かという点について説明を要する。法定測定時間を一定時間上回る水準で監視体制としては十分ではないかという疑問が残るので説明を求めたい。		
実績値の妥当性				
指標	調査している大気汚染項目の中で環境基準を有する項目のうち練馬区が調査している項目の割合			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映		区が自主的に環境調査に取り組んでいることは理解され評価できる。しかし、いずれ移管されることが予定されているなかで、すべて移管されれば自動的に目標が達成されてしまうことにもなる指標であることに留意する必要がある。	
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特長			
	オ) 総合			
目標の妥当性		施策の本来の目的から考えると、調査主体に関係なく、大気汚染項目のすべてで環境基準を達成していることが重要である。設定理由に、区が調査主体となることでどのような改善がなされるのかという説明を求めたい。目標として妥当であるか判断ができない。		
実績値の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
			成果指標、について、ともに監視体制の充実を示す活動指標であり、指標で十分ではないか。施策の目指す状態から考慮すると、成果指標として測定結果の情報提供・活用状況や、必要な対策の進捗状況などの指標も考えられる。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
			成果指標については、目標水準や設定理由に疑問が残る。	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) - :該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		
イ)記載内容の正確性		
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	成果指標 の法定環境基準が達成されておらず、B評価が妥当である。
	イ)判断理由の妥当性	× 判断理由は、成果指標 の法定環境基準の達成が80.4に留まり、横ばいになっている事実を明確に記述すべき。記載内容からは、区が実施している調査項目の不備がB評価の理由と読み取れる。
	ウ)その他	- 環境調査の主体が都であろうと、区であろうと、環境調査の結果を活用していか環境保全対策に取り組んでいるかが施策の成果として重要である。本施策の成果は環境測定の内容や体制の確立の範囲に留まらない。
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	13年度から15年度にかけて事業費が上昇した理由をコメントすべきである。現状の内容では情報が不足しており、判断ができない。
	イ)判断理由の妥当性	経費に対して十分な成果が上げられているかが記載されるべきであるが、経費に対するコメントがない。
	ウ)その他	- 経費として係った、事業費、人件費の妥当性をコメントすべきであり、本来記載すべき内容が記載されていない。
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	環境基準が達成されていない理由として、環境を調査することに留まっており、それが施策への反映や体制の確立に活かされていないことが明確に書かれている。
	外部要因 記載内容の妥当性	× 広域的な対策の必要性は理解できる。が、調査主体が区でないから全体的な状況の把握が困難という点は外部要因とはいえない。状況把握が調査結果公表後で、対策が後追いになり、迅速な対応がしにくいという点ではないか。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	成果がB評価であり、総合評価もBが妥当である。
	イ)判断理由の妥当性	× 区へ事業が移管されれば、環境基準が達成できるように読み取れるが、判断理由として適切か疑問を感じる。
	ウ)その他	-
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	
	イ)説明の妥当性	× 前回の課題にどのように対応したのかわかりにくい。体制の総合的な見直しはしたのか、項目と測定地点の見直しをしたのか、明確に記載すべき。
本年度	ア)評価結果との関連性	× 騒音のみに留まっており、評価結果を踏まえた内容としては不十分である。関連性も明確でない。
	イ)内容の具体性	× 調査結果をどのように政策へ反映させていくのか具体的にすべき。特に成果指標について、達成できていない項目は何で、どのように対応していくのか明確にする必要がある。対策部分が他の施策・事業となるならば、どの施策でどのように対応されるのか、そのつながりを示してもよい。
	ウ)その他	-
(6)その他		
その他		環境を監視することは、環境基準を達成していくことの第一歩ではあるが、直接的な対策ではないため、施策の目指す状態と成果指標の関係がわかりにくくなっている。どんなに充実して環境を監視しても(すべての事務事業が目標達成されても)目標は達成できないように感じられる(対策がとられなければ環境は改善されない)。従って、施策の成果として、測定結果がどのように対策立案に反映されたのかを評価のコメントに加えていくべきである。

〔評価〕 : 妥当 (問題なし) : やや疑問・情報不足等により判断が困難 × : 妥当性を欠く (問題あり) - : 該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		333 ふるさとの緑の継承		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		目指す状態そのものは変わっていないが、平成14年度から16年度に施策の目的が具体的で明確になり改善された。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	市民緑地造成か所数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特性		
		オ) 総合		
	目標の妥当性		14年度より目標の根拠が明確に示された点は評価できる。しかし、年4か所と明確な年度目標があり、事務事業評価では、単年度で評価しているにも関わらず、施策評価表では累積で評価されている。累積値と単年度では成果の達成状況として大きな差となるため、累積値を採用した点について説明を求めたい。	
	実績値の妥当性			
	指標	保護樹木の指定実数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特性		
オ) 総合				
目標の妥当性		14年度より目標の根拠が明確に示された点は評価できる。しかし、年4か所と明確な年度目標があり、事務事業評価では、単年度で評価しているにも関わらず、施策評価表では累積で評価されている。累積値と単年度では成果の達成状況として大きな差となるため、累積値を採用した点について説明を求めたい。		
実績値の妥当性				
指標	農業体験農園の設置数			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映		農地の継承を区の特性・重要な施策と捉えているのは理解できるが、農園数16か所という目標の根拠を示してほしい。16か所の体験農園の設置が、区の農地の保全にどの程度効果を上げられるのかわかりにくい。代替案として、農地の区画数(利用世帯数)などをなど需要に対する充足度を表す指標にした方がよいのではないか。	
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特性			
	オ) 総合			
目標の妥当性		事務事業評価より農園への応募倍率(1.3)と記載されており区民需要を満たすための設置数の増加は理解できるが、16か所が目指すべき状態(望ましい水準か)については説明を要する		
実績値の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
			緑地、保護樹木、農地と区の主要な保全事業の指標が採用されておりよい	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
			目標の達成度について、単年度事業として評価するか、累積で評価するかによって結果が異なるため議論を要する	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		
イ)記載内容の正確性		
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	「達成率は低い数値が増加していること自体成果として評価できる」というコメントは適切ではない。最も重要とする 成果指標 を重視すると、成果が上がっているとは言いがたい。
	イ)判断理由の妥当性	
	ウ)その他	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	人件費が1.5倍に増加しているため、増加理由の説明を要する
	イ)判断理由の妥当性	
	ウ)その他	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	
	外部要因 記載内容の妥当性	
総合評価	ア)評価区分の妥当性	<p>現行施策はA目標とする成果が上がっており、成果と経費の比較でもAと評価しているにもかかわらず、外的要因からBと評価している。</p> <p>現行施策の評価としては成果があがっている場合には、「区の施策でなく外的要因でB評価としている」旨を明確にし、書き方の統一が必要。</p>
	イ)判断理由の妥当性	
	ウ)その他	
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	
	イ)説明の妥当性	
本年度	ア)評価結果との関連性	
	イ)内容の具体性	
	ウ)その他	-
(6)その他		
その他		

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		352 環境学習の体系的促進		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・前年度まで「...一人一人が具体的な行動を始めている」とあったのが、「...始めようとしている」と変更された。表現自体はわかり易く、施策の方向性もよいが、どの時点が「始めようとしている時点」なのか難しい。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	登録されたエコクラブ数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質		・エコクラブ事業は練馬区が地域事務局となっているということなので、「区の特長」は とする。 ・クラブ数は事務事業No.111の「活動指標」である。同事業の成果指標のアースレンジャー認定者数を本施策の成果指標とすべきと思われる。	
	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特長			
	オ) 総合			
	目標の妥当性		・12年度以降の事業運営の経験の蓄積もあるはずであり、17年度までの目標値が変わらず20であるのは低いと思われる。	
	実績値の妥当性			
	指標	ふれあい環境学習受講学校数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質		・事業実施の事実 = 指標数値の実績となるので、事業結果としての成果とは言いきれない。環境学習の結果どうなったかという視点が望まれる。	
	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特長			
	オ) 総合			
目標の妥当性		・学校1校当たりの経費を下げながら、目標値を維持しているのはよい。		
実績値の妥当性				
指標	リサイクルセンター講座開催数			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質		・講座受講者の実施結果に関することを指標が理想的であるが、受講者の追跡調査を詳細に多数行うのは困難であるので、本指標でやむをえない。可能であれば、一部であっても追跡調査を行ってもよいのではないかと(施策指標でないとしても)。		
ア) 成果の反映				
イ) わかりやすさ				
ウ) 重要性				
エ) 区の特長				
オ) 総合				
目標の妥当性		・16年度からの指標変更のため15年度の目標値が設定されていない。		
実績値の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
			・小中学校を対象とした環境学習だけでなく、成人対象の講座についても指標がカバーしているのはよい。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
			・指標 は目標達成が半分程度であり、また前年度から減少していること、 については目標値が設定されていないため、判断ができない。	

(評価) : 良好(重要) : やや疑問(あまり重要でない) x: 問題あり(重要でない) -: 該当なし

(3) 経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		
イ)記載内容の正確性		
(4) 評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	・指標 は目標達成が半分程度であり、また前年度から減少しているため、B評価が妥当。(については目標値が設定されていないため、判断ができない。)
	イ)判断理由の妥当性	・都内市区町村との比較はここでは関係ないこと。 ・B評価としたが、指標 は12年度から継続して状況は改善されつつあることが説明されているのがよい。
	ウ)その他	-
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	× ・15年度の事業費は13年度の2倍以上であるが、その割には成果の達成度が伸びていない。 ・事務事業の半分の効率性は「低い」となっており、A評価は妥当でない。
	イ)判断理由の妥当性	・上記に加え、どのように判断したのかが説明不足である。
	ウ)その他	-
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	
	外部要因 記載内容の妥当性	× ・小中学生・一部の区民への啓発にとどまったことは、事業の対象範囲を限定したということであり、内部要因である。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	
	イ)判断理由の妥当性	× ・ここでは、成果と経費の比較がA評価であったが、総合評価をBとした理由をもう少し書いてほしい。 ・述べられている内容は今後の改善点であり、場所が不適。
	ウ)その他	-
(5) 改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	
	イ)説明の妥当性	
本年度	ア)評価結果との関連性	
	イ)内容の具体性	
	ウ)その他	
(6) その他		
その他		・「評価のための評価」とならないために、前回の評価結果が適切にフィードバックされているか、つまり、前回の改善案を取り込んだかどうか(学習する組織であったか)、という視点も重要である。この点も評価対象とすべきと思われる。

〔評価〕 : 妥当(問題なし) ; やや疑問・情報不足等により判断が困難 × : 妥当性を欠く(問題あり) - : 該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		412 土地利用の計画的誘導		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		「施策の目指す状態」については明確でよい。妥当		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	用途地域等を見直した面積		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質		見直しはされているものの役割(1)で指摘した「目標に対しての誘導の度合」が評価され、指標になることが望ましいという指摘が反映されていない。	
	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特徴	-		
	オ) 総合			
	目標の妥当性		H17年度以降の目標は、すべて最終目標である区の面積(4,816ha)となっているが、毎年の目標を立て、進捗管理を行うべきではないか。	
	実績値の妥当性			
	指標	生産緑地地区の追加指定面積		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質		生産緑地地区の重要性は認識するが、あくまでも区民からの要望に基づいて指定するものであり、「土地利用の計画的誘導」を行う施策の代表的な指標として適切であるか疑問。	
	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特徴			
	オ) 総合			
目標の妥当性		区民からの要望に基づくことから数値目標を掲げることが難しいと考えられるが、それであれば、その理由を明記していただきたい。(第三者が見てわかるように)		
実績値の妥当性				
指標				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質				
ア) 成果の反映				
イ) わかりやすさ				
ウ) 重要性				
エ) 区の特徴				
オ) 総合				
目標の妥当性				
実績値の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
			防災や交通安全等を目的として行われる土地利用の計画的誘導という視点から、他にさらに適切な指標があるのではないだろうか。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)		コメント	
			2つの指標とも目標の達成度はわかりにくい。指標 は17年度にはじめて目標が掲げられ、指標 は目標が「増加」であることから、達成度の評価はしづらい。(H15年度は550m2増加しているのに、目標は達成できていると言えなくもないが、評価がむずかしい。)	

(評価) : 良好(重要) : やや疑問(あまり重要でない) x: 問題あり(重要でない) -: 該当なし

(3) 経費・財源について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)必要事項は記載されているか		記入されている。	
イ)記載内容の正確性			
(4) 評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア)評価区分の妥当性		
	イ)判断理由の妥当性		
	ウ)その他	-	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性		
	イ)判断理由の妥当性	×	与えられた情報のみでは判断できない。 事務事業経費の説明が地図1枚当りの価格(単価)で表わされている(*)が、これでは必要となる調査検討費用が表現できず誤解を与える。 (* : H13年度4千円/枚、H14年度1.5万円/枚。H14年度は調査検討費用が含まれていると思われる。調査検討費用は別途表記すべきではないか)
	ウ)その他	-	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性		
	外部要因 記載内容の妥当性		
総合評価	ア)評価区分の妥当性		
	イ)判断理由の妥当性		
	ウ)その他	-	
(5) 改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
前回	ア)評価区分の妥当性		
	イ)説明の妥当性		
本年度	ア)評価結果との関連性		
	イ)内容の具体性		
	ウ)その他	-	
(6) その他			
その他			

〔評価〕 〇:妥当(問題なし) 〃:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		422区民の防災行動力の向上と連携の強化		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか				
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	区民防災組織の活動組織数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特長		
		オ) 総合		
	目標の妥当性		目標の決め方について、22年度目標(地域防災計画)を600であるにも関わらず、450と下げている理由を明確にする必要がある。	
	実績値の妥当性			
	指標	防災訓練参加者数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特長		
オ) 総合				
目標の妥当性		14年度評価では人口5%(33600人)であったが、50,000人に増加している。増加の根拠がわからないので説明を求めたい。		
実績値の妥当性				
指標				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特長			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
実績値の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
			指標、の双方が区民の防災行動力の向上を示す指標であるため、連携を表す指標があればより望ましい。今後の災害時においても連携の重要性は高い。もしくは、各防災組織の自主活動化の進捗を示す指標を求めたい。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		
イ)記載内容の正確性		
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	
	イ)判断理由の妥当性	
	ウ)その他	-
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	
	イ)判断理由の妥当性	×
	ウ)その他	-
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	
	外部要因 記載内容の妥当性	
総合評価	ア)評価区分の妥当性	
	イ)判断理由の妥当性	
	ウ)その他	-
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	
	イ)説明の妥当性	×
本年度	ア)評価結果との関連性	
	イ)内容の具体性	
	ウ)その他	-
(6)その他		
その他		防災ネットワークの取り組み状況(進捗状況)を示す成果指標の検討を求めたい。

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		432 だれもが利用しやすい施設等の整備		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		対象が「公共施設」となっているが疑問。不特定多数が利用する商業施設なども対象になっているのではないか。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	福祉のまちづくり適合標示板の発行件数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		妥当
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴		
		オ) 総合		
	目標の妥当性		本来目指すべき目標(理想)と現実(実情)を勘案して、毎年の目標を設定しているのは良いと考える。ただし、今後、バリアフリー、ユニバーサルデザインの考え方は普及・浸透するはずであり、目標が毎年28件で一定であるのは消極的ではないか。建築の事前協議件数にもよるが、毎年の目標を順次増やすべきではないか。	
	実績値の妥当性		「練馬区福祉のまちづくり整備要綱」に基づいて交付されており、基準も明確と考えられる。	
	指標	区立施設のバリアフリー度		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		妥当
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴	-	
オ) 総合				
目標の妥当性		区の率先垂範の姿勢を明確にするためにも、「 年迄に区施設のバリアフリー化を 割まで達成」といった目標は立てられないのだろうか。毎年の目標が「増加」のみでは、若干消極的に感じる。		
実績値の妥当性		「練馬区福祉のまちづくり整備要綱」に基づいて交付されており、基準も明確と考えられる。		
指標	鉄道駅バリアフリー事業の補助によりバリアフリー化が完了した駅			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映		妥当	
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特徴	-		
	オ) 総合			
目標の妥当性		目標が明確で良い。(補助事業との関係が明確であるからか)		
実績値の妥当性		妥当		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
			3つの指標とも着実な増加が見られ、成果は表われている。指標 のH15年度達成率は64.3%であるが、今後の伸びを期待したい。	

〔評価〕 : 良好(重要) : やや疑問(あまり重要でない) × : 問題あり(重要でない) - : 該当なし

(3) 経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		
イ)記載内容の正確性		
(4) 評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	<p>成果指標に取り上げた3事業については着実に前進が見られているので、適切な評価と言える。ただし、公共施設を中心とするバリアフリー化は国を含めて大きな力を入れている事業であること、高齢化の進行が急激であり、対応が急がれることなど考慮すると、現在の目標の設定(バリアフリー化達成のスピード)が適切であるかは、改めて検討の必要があるかもしれない。</p>
	イ)判断理由の妥当性	
	ウ)その他	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	<p>少人数の職員による事業推進の成果として評価して良いと考える。事業の主旨そのものが事業者・区民に浸透することにより、事業の効率性もさらに向上することが期待されるため、持続的な努力を期待したい。</p>
	イ)判断理由の妥当性	
	ウ)その他	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	<p>「認識の高まり」の要因は何だろうか？ 何故に認識が高まったのかが分析できると、その教訓は他の事業にも生かせると思う。</p>
	外部要因 記載内容の妥当性	
総合評価	ア)評価区分の妥当性	<p>上欄「成果」の評価で述べたように、今後は目標の妥当性自体について、常に検証しながら、進めていただきたい。</p>
	イ)判断理由の妥当性	
	ウ)その他	
(5) 改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	<p>内容 について、「検討中」とされているが、検討がどこまで進み、何が残っており、いつまでに検討を終えるのかが記述されていると良い。</p>
	イ)説明の妥当性	
本年度	ア)評価結果との関連性	<p>内容 について、前回の内容 との関連を明確にすると良いのではないかと。また「要綱見直し」が「事業者の負担軽減」を目的とするという記述になっているのは不適切ではないか。「見直し」は本来あるべき姿に照らして行われるべき。(あるいは説明が不足しているのか。)</p>
	イ)内容の具体性	
	ウ)その他	
(6) その他		
その他		

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		442 道路の体系的な整備		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		若干抽象的なきらいはあるが、道路という身近な施設についての表現であり、理解は可能であると考え。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	事業化路線区間数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		指標そのものは活動指標であるが、周辺対策等の様々な要因を含んでの事業であるので良いと考える。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特長	-	
		オ) 総合		
	目標の妥当性		「目標年度の19区間の事業化」の意味づけ(なぜ19区間なのか)の説明が欲しい。	
	実績値の妥当性			
	指標	公道の拡幅件数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		きめ細かい事業推進が必要となると考えられるが、指標としても重要であると考え。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特長	-	
		オ) 総合		
	目標の妥当性		当面は過去の実績値の平均値で良いが、適宜見直しは必要となる。	
	実績値の妥当性			
指標				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特長			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
実績値の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
			指標を見る限りは達成度は良好である。ただし、指標については、目標の達成が織込済のように見受けられる。	

〔評価〕 : 良い(重要) : やや疑問(あまり重要でない) x: 問題あり(重要でない) -: 該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		
イ)記載内容の正確性		
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	指標で取上げた2事業については成果を上げており、評価、判断理由も妥当である。ただし、それ以外の事業についての言及が全くなくて良いか。
	イ)判断理由の妥当性	
	ウ)その他	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	(評価できない)
	イ)判断理由の妥当性	判断理由 の意味が不明瞭(指標 の事業を指しているのか)
	ウ)その他	-
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	基本的に良いが、理由 、 は事業の前進の要因であり、 は業務の効率化の要因であるので、その点を書き分けた方がわかりやすい。
	外部要因 記載内容の妥当性	理由 について、若干でも良いので、具体的事業が示せると良い。区民意識調査のデータなど。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	基本的には良いが、施策全体の目標が数値化されて示されているわけではないので、「施策の実現に向っている」より、「施策は着実に実施に移されている」の方が良いか？
	イ)判断理由の妥当性	
	ウ)その他	
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	前進した部分と実現できなかった点、課題が明確に示されていて良い。
	イ)説明の妥当性	
本年度	ア)評価結果との関連性	基本的には良いが、検討の目標期限がもう少し具体的に示されると良い。
	イ)内容の具体性	
	ウ)その他	
(6)その他		
その他		造ることより維持補修が重要になる時代をまもなく迎える。道路の維持補修事業(事業費約12億円/年)に関して、指標化することや施策評価のなかで評価対象として留意することなど、重視が必要ではないか。

〔評価〕 :妥当(問題なし) :やや疑問・情報不足等により判断が困難 x:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		451 駅周辺の拠点機能の向上		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・大半の事業がインフラ整備事業である。これらの成果として、生活や買い物や移動がどの程度利便になったかを表すのは難しい。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	駅周辺にふさわしい建築物の更新度		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・指導要領や地区計画に沿った事業実施の結果を測る指標であるが、実際に区民の生活の拠点の環境整備とどのように結びつくのかという関係を見るのが難しい。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特性		
		オ) 総合		
	目標の妥当性		・15年度までの目標が設定されているので、15年度の目標の妥当性については判断できない。	
	実績値の妥当性			
	指標	駅前地域にふさわしい安全でゆとりある快適な歩行者空間の拡大度		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・16年度から指標名が変更されているが、定義には変更はない。「拡大度」よりも「長さ」のほうがわかり易いように思える。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特性		
		オ) 総合		
	目標の妥当性		・22年度までの目標が設定されているので、15年度の目標の妥当性については判断できない。	
	実績値の妥当性			
指標	自転車駐車場整備目標台数を達成した駅数(22駅)(上記21駅+上井草)			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映		・施策443の指標と同じであるが、駅周辺の拠点機能を向上させるためには重要である。	
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特性			
	オ) 総合			
目標の妥当性		・自転車利用総合計画に沿ったものである。		
実績値の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
			・駅周辺の区民の生活の拠点という概念が総合的なものにならざるを得ないので、上記の3指標で十分に表すのは難しい。 ・交通に関する事業の結果についてはカバーされていない。	
			・指標 と は10カ年計画の3年目に4割近い達成度となっているのだが、毎年度の目標設定が行われていないので、今年度の目標の達成度という点では判断しかねる。	

【評価】 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) - :該当なし

(3)経費・財源について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)必要事項は記載されているか			
イ)記載内容の正確性			
(4)評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成 果	ア)評価区分の妥当性	・ と は年度目標は設定されていないが、10ヵ年計画の4年目としてはよい。 は年度目標に僅かに及ばないが、前年度からの状況が改善されている。よって、A評価は妥当である。	
	イ)判断理由の妥当性	・ のように、年度目標に到達していないがA評価とした理由を述べるべきである。は成果があがった判断ではなく、要因が述べられている。	
	ウ)その他	-	
成 果と 経 費 の 比 較	ア)評価区分の妥当性	・ 事務事業評価の効率性が一つを除いてみな、効率的である。	
	イ)判断理由の妥当性	・ で事業費が大きく減少したと説明されているが、その結果として効率性についてはどのようなことが言えるのか、もう少し説明がほしい。	
	ウ)その他	-	
要 因 分 析	内部要因 記載内容の妥当性	・ 内部要因として「まちづくり部門の連携が深まった」「合意形成活動が高まった」とあるが、欲を言えば、これらがどのように成果実現に寄与したのかの説明がほしい。	
	外部要因 記載内容の妥当性	・ 説明は明確である。 ・ 外環整備の方向性策定が滞っていることも外部要因となるのではないか。	
総 合 評 価	ア)評価区分の妥当性	・ 成果と成果と経費の比較のどちらもA評価となっている。	
	イ)判断理由の妥当性	・ 成果と成果と経費の比較の両方がA評価であったため、総合評価はAとする、というようにシンプルに書けばよい。加えて、事業費規模では最大級の施策であるのでもう少し具体的な説明が必要。	
	ウ)その他	-	
(5)改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
前 回	ア)評価区分の妥当性	・ については、改善案を受けて具体的にアクションが取られている。	
	イ)説明の妥当性	・ と の改善案はあまり具体的でなかったため、それに対応する進捗状況も具体的な書きぶりになっていない(結果として、更なるフォローが困難になる)。	
本 年 度	ア)評価結果との関連性	・ 2つの改善案ともどの部分の評価結果から導き出されたものなのか明確でない(一般的に言える改善点と言えるものである)。	
	イ)内容の具体性	×	・ はどの事業(担当部課)に対してなのか、改善策が取られるのに十分な程度に具体的にする必要はある。
	ウ)その他	-	・ については、改善案の内容自体はとても望ましいものであるが、今回成果指標は変更されており、指標変更が頻繁に行われると、12年度からの継続測定が困難になる。
(6)その他			
その他		・ 区民のニーズの高い事業を、区民の合意形成に基づいて事業を実施しており、こういった姿勢は高く評価される。	

〔評価〕 : 妥当(問題なし) : やや疑問・情報不足等により判断が困難 × : 妥当性を欠く(問題あり) - : 該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		521 経営支援の充実		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・ 妥当である。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	区内企業の年間倒産率		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映	-	・ 景気など、区の施策以外の要因に左右される面が大きく、施策の成果を必ずしも反映していない。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴		
		オ) 総合		
	目標の妥当性		・ 景気動向に左右される指標であるため、可能であれば、対前年比ではなく同じ年の他自治体との比較が適切ではないか。(今回は他自治体との比較となっていた)	
	実績値の妥当性		・ 新規の指標であるため、15年度までの目標値は「-」となるはず。	
	指標	区内の事業税額		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映	-	・ 景気など、区の施策以外の要因に左右される面が大きく、施策の成果を必ずしも反映していない。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴		
オ) 総合				
目標の妥当性		・ 景気動向に左右される指標であるため、対前年比で適切な評価ができるかやや疑問。「1事業所あたりの事業税額」または「事業税を払っている事業所の割合」等として、同じ年の他の自治体と比較することはできないか。		
実績値の妥当性		・ 新規の指標であるため、15年度までの目標値は「-」となるはず。		
指標				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特徴			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
実績値の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
			・ 両指標とも重要な指標であるが、これらだけで施策の効果を測るのは難しい。	
			・ については、目標値が変わってはいるが、よい方向(減少)に変化している。	
			・ については、新規の指標であり、判断できない。	

(評価) : 良い(重要) : やや疑問(あまり重要でない) x: 問題あり(重要でない) - : 該当なし

(3) 経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		・記載されている。
イ)記載内容の正確性		・判断は困難。
(4) 評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成 果	ア)評価区分の妥当性	・1指標は新規、もう1指標は目標値が変わっているが、両指標ともぞましい方向に変化しており、Aという評価は理解できる。ただし、景気が回復すれば改善する指標であるため、前年度を上回ったとしても、自動的に施策の成果と考えることはできない。その点の分析が必要。
	イ)判断理由の妥当性	
	ウ)その他	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	・評価表にある情報だけでは判断が難しい。
	イ)判断理由の妥当性	・記載内容は理解できるが、経費が妥当であるかは産業融資あっせん制度の性格にもよる。(倒産しないように支えるものなのか、開発投資にも利用できるものなのか。)
	ウ)その他	-
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	・成果達成の要因として、これまでの制度見直しやPRの徹底をあげているが、これらが効果を上げ、成果の達成に貢献したといえるかを検証すべき。 ・施策の良い面だけでなく、問題点についても分析すべき。
	外部要因 記載内容の妥当性	× ・何よりも、景気動向の影響を分析する必要がある。指標の改善は景気回復の結果なのではないか。近隣の区や都の指標と比較してはどうか。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	・内部要因、外部要因を考慮した上で、なお施策の成果が上がっていると判断できるだけの根拠が示されていない。 ・ の記述は、内部要因の項に記入すべきではないか。
	イ)判断理由の妥当性	
	ウ)その他	
(5) 改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	× ・ では、個別の1事業の見直しについてしか触れられていないが、全体の進捗状況の説明が必要。(ただし、そもそも体系全体の見直しを個別の施策の改革・改善案に書いてもその実行性に疑問がある。書くのであれば産業振興に関連する全ての施策の改革方向として認識されるべき。)
	イ)説明の妥当性	
本年度	ア)評価結果との関連性	・良好に進んでいるという総合評価が妥当であれば、記載されている現行事務事業の枠組みを維持したうえでの改革・改善案は妥当であるが、総合評価に疑問がある。
	イ)内容の具体性	× ・ で「検討する」と書いているが、検討の結果の具体的な改革・改善案を記載すべき。できないのであれば、いつまでにどのような検討を行うかを書くべき。
	ウ)その他	・前回の改革・改善案が達成されていないにもかかわらず、継続して掲げられていないのはなぜか。
(6) その他		
その他		・施策と成果の関連性を見るためには、潜在的な施策の対象事業者のうち、どれだけが実際に制度を活用しているかを分析する必要がある。区内事業所数に比べ制度利用企業数があまりに少ない場合は、施策の効果は限定的である可能性が高い。

〔評価〕 :妥当(問題なし) :やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		522 各種団体の育成と活動への支援		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・区の施策として、各種団体の活動の活発化を目指すことが適当なのかどうか、再考が必要。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	区内事業所における各産業団体への加盟率		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・加盟率を向上させるのは個々の団体の課題ではないか。施策の成果指標として適当かどうか疑問。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴	-	
		オ) 総合		
	目標の妥当性		・趨勢的に各種団体の加盟率が減っていることを考えると、現状維持は妥当な目標と考えられる。 ・新規の指標であるため、15年度までの目標値は「-」となるはず。	
	実績値の妥当性			
	指標	各産業団体が実施するイベント参加率		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・施策の成果を反映しているか疑問。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴	-	
オ) 総合				
目標の妥当性		・現状は、事業者が自分の加盟する団体のイベントにすら参加しなくなっている状態である。現状維持ではなく、向上を目指すべきではないか。 ・新規の指標であるため、15年度までの目標値は「-」となるはず。		
実績値の妥当性				
指標				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特徴			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
実績値の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
		×	・施策の成果を反映しているか疑問。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		-	・新規の指標であり、判断できない。 ・目標値に関係なく指標の変化を見るならば、両指標とも悪化の方向に向かっている。	

〔評価〕 ○: 良好 (重要) △: やや疑問 (あまり重要でない) ×: 問題あり (重要でない) -: 該当なし

(3) 経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア) 必要事項は記載されているか		・記載されている。
イ) 記載内容の正確性		・事務事業の経費には、年度末に返済される貸付が含まれており、正確な経費といえないのではないか。
(4) 評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア) 評価区分の妥当性	・主管課の説明や事務事業評価結果などを総合すると、成果は上がっていないという評価は妥当と考えられる。
	イ) 判断理由の妥当性	・現行の指標は成果を反映しているとはいえないため、指標以外の要素を考慮に入れて評価すべき。
	ウ) その他	-
成果と経費の比較	ア) 評価区分の妥当性	
	イ) 判断理由の妥当性	× ・成果と経費を比較した説明が必要。記載内容は、どちらかといえば成果の評価の項に書くべき事柄ではないか。 ・経費は増加してきているのに成果は上がっておらず、費用対効果は年々下がってきているのではないか。
	ウ) その他	-
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	× ・なぜ、「現行の支援策が団体の自主的活動の促進まで波及するものとなっていない」のかの分析が必要。
	外部要因 記載内容の妥当性	・妥当と考えられる。
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	・主管課の説明や事務事業評価結果などを総合すると、良好に進んでいないという評価は妥当なものと考えられる。
	イ) 判断理由の妥当性	・妥当である。
	ウ) その他	-
(5) 改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア) 評価区分の妥当性	・改革・改善案は具体的に実現しておらず、C「検討中」という評価は妥当である。
	イ) 説明の妥当性	・の進捗状況についての説明が必要。
本年度	ア) 評価結果との関連性	・評価結果からは、現行の事務事業を根本的に見直す必要性が示唆される。記述内容に問題があるわけではないが、現状の深刻さが認識されているか疑問。
	イ) 内容の具体性	× ・より具体的な見直しの方針や手順を示すべき。
	ウ) その他	・前回の改革・改善案が達成されていないにもかかわらず、継続して掲げられていない。達成するまで掲げるべき。未達成のものを落とすのであれば、理由を記載してほしい。

(6)その他

その他	<p>【事務事業評価表の記載について】</p> <ul style="list-style-type: none">・「生鮮食料品共同販売事業」の経費の欄には、年度末に返済される貸付が含まれている。実際にかかった経費がわかるように、算定方法を見直すべきではないか。 <p>【施策のあり方について】</p> <ul style="list-style-type: none">・区の施策として、各種団体の育成をどう行うべきなのか再考が必要。団体が求める支援内容と行政の施策展開が一致しているのか疑問がある。・施策の対象は各産業団体ではなく産業団体が行なう活動と捉え、団体単位での支援から活動単位での支援に変えるべきではないか。・現状の産業振興策は、広く浅いものになっている。選択と集中を目指し、ゼロベースで施策の内容を見直すべき。・特定の団体を支援するのではなく、公募方式などによって、やる気のある団体の活動を支援することが重要。
-----	---

【評価】 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		523 地域産業の振興		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・「新しい産業」というのが何を指すのか、明確ではない。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	起業家セミナー企業率		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質		・区の支援策の成果を測定する指標である。ただし、区内の起業全体の動向を表すものとはなっていない。	
	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特徴	-		
	オ) 総合			
	目標の妥当性		・これまでも1割以上が起業していることを考えると、目標値はさらに高くてもよいのではないかと。 ・新規の指標であるため、15年度までの目標値は「-」となるはず。	
	実績値の妥当性			
	指標	創業支援貸付実行率		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質		・なぜ貸付件数ではなく、実行率なのか疑問。	
	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特徴	-		
	オ) 総合			
目標の妥当性		・100%という目標は、現実的ではないのではないかと。		
実績値の妥当性				
指標	区内事業所数			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質		・重要な指標であるが、外部要因の影響が大きく、施策の成果だけで向上するものではない。		
ア) 成果の反映				
イ) わかりやすさ				
ウ) 重要性				
エ) 区の特徴	-			
オ) 総合				
目標の妥当性		・現状維持は、妥当な目標値と考えられる。		
実績値の妥当性	×	・15年度の実績値が記載されていない。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		-	・ は新規、 は目標値が変化、 は実績値なし、という状態であり、判断は困難。 ・ 新たに設定した目標値をもとに判断すると、 は目標達成、 は未達成。	

(評価) : 良い(重要) : やや疑問(あまり重要でない) ×: 問題あり(重要でない) - : 該当なし

(3) 経費・財源について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)必要事項は記載されているか		・記載されている。	
イ)記載内容の正確性		・判断は困難。	
(4) 評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア)評価区分の妥当性	・主管課の説明や事務事業評価結果などを総合すると、成果は上がっていないという評価は妥当と考えられる。	
	イ)判断理由の妥当性	・新たに設定した目標値を基準に評価しているが、目標達成した指標と未達成の指標があるにもかかわらず、なぜ総合してBと判断したのかわからない。 ・企業間交流、新産業の育成に対応する指標がないため、これらについては指標以外の要素を考慮する必要がある。	
	ウ)その他	-	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	・判断は困難。	
	イ)判断理由の妥当性	×	・記載された理由は、成果の評価の項に書くべき事柄である。成果と経費にかかわる記載が必要。
	ウ)その他	×	・15年度に経費が大幅に増加しているのは、コミュニティビジネス調査研究費が追加になったためとのこと。その点を特記すべき。
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性		・記載された事柄だけが、成果が上がっていない要因とは思えない。現行の事務事業では、目指す状態を達成するには不十分な点があるのではないか。個々の事務事業の問題点だけでなく、全体的な施策の方向性にかかわる問題点を分析すべき。
	外部要因 記載内容の妥当性		・事業所数が減少している点については、景気などの外部要因が大きいのではないか。
総合評価	ア)評価区分の妥当性		・主管課の説明や事務事業評価結果などを総合すると、良好に進んでいないとの判断は妥当と考えられる。
	イ)判断理由の妥当性	×	・全体に起業支援についての記述のみであり、企業間交流や新産業の育成に関する分析がない。施策全体を評価していない。
	ウ)その他	-	
(5) 改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
前回	ア)評価区分の妥当性		・一部の改革改善案についてしか達成されておらず、Cの評価は妥当である。
	イ)説明の妥当性		・ についての進捗状況の説明がない。
本年度	ア)評価結果との関連性	×	・記載内容が一般的であり、評価結果を踏まえたものになっていない。 ・新産業の育成に対応する改革改善案がない。そもそもどの産業を育成するつもりなのが見えない。 ・内部要因の欄に、「起業家セミナーの受講希望者を全て受け入れることができていない」とある。これを踏まえて、受け入れ受講者数の増加を検討すべきではないか。 ・同じく内部要因の欄に、「創業支援貸付について区民の認知度が低い」とある。認知度を増やす対策が必要ではないか。
	イ)内容の具体性		・ の「ニーズに的確に対応」というのが、何を指すのかわかりにくい。
	ウ)その他		・前回の改革・改善案が達成されていないにもかかわらず、再掲されていない。

(6)その他

その他	<p>【評価のあり方について】</p> <ul style="list-style-type: none">・補助金については、事務事業とは別の評価体制となっている。一本化がのぞましい。・「手段」の欄は、いつ、どこで、誰が、何を行うのか書かないと、区民にはわからない。・「主な意見・要望」欄も、誰の意見なのかわかるように、丁寧な記載をしてほしい。・「対象」の書き方が事務事業によって異なる。潜在的な対象である事業所総数を書いている場合と、「不特定」としている場合がある。・外部要因の強い指標については、見直させるような仕組みが必要ではないか。・産業振興の施策は、変化への弾力的な対応をしないと成果をあげられない性質のものなので、評価の時期や方法が他の施策と同じでよいか、検討する必要があるのではないか。 <p>【施策のあり方について】</p> <ul style="list-style-type: none">・施策523は、方向性は理解できるが、改革改善が進んでいない。事務事業のランク付けを行って、ランクの低い事業は廃止すべき。 <p>【産業振興策全体の方向性について】</p> <ul style="list-style-type: none">・現状は総花的で戦略が感じられない。メリハリ、選択と集中が必要。・区としての戦略を明示する必要がある。産業政策は、他の分野と比較して自治体の裁量の余地が大きいはず。・現行の施策と事務事業は、いったん白紙に戻して根本的に考え直すべき。・他自治体と共通の事業(国や都の補助にもとづく事業など)以外のものについては、一定期間成果がなければ廃止する原則にしてはどうか。・区として伸ばす部分については、施策対象者の意見を聞いて、新規事業に組替える必要がある。・都、国なども各種支援策を打ち出している中で、区が行うべき施策を再検討する必要がある。区ができるのは、コーディネイトや場の提供、インフラ整備などではないか。・やる気のある団体を応援することが大切。公募制、提案型の補助事業を検討してほしい。・他の自治体が行っている事業を練馬区だけ行わないと区内事業所が不利になるため、そうした事業は行っていくべき。・産業政策全体の方向性は、産業振興条例で定める方向へシフトさせるべき。「地域社会に貢献する」、「区民の生活環境と調和した産業」などの表現がある。・主管課によれば、区として特定事業者を支援するのは難しいとのことだが、モデル事業として実施して、成功例を広げていくという手法は可能である。
-----	---

【評価】 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) - :該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		542 都市型農業経営の確立と安定化		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・前回よりも具体的な記述となった。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	農家戸数における、年間150日以上農業に従事する農業専従者が2人以上いる戸数の割合		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映	×	・施策の目的にも農業専従者の確保がうたわれており、妥当な指標である。 ・ただし、割合で示すと農家戸数が減少しても目標が達成される点が懸念される。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴		
		オ) 総合		
	目標の妥当性	×	・農業を取り巻く現状を考えると、向上を目指すのはかなり難しいのではないかと。 ・年度を経るにつれ尻上がりに目標値が上がるのは、現実的ではない。 ・新規の指標であるため、15年度までの目標値は「-」となるはず。	
	実績値の妥当性			
	指標	農地面積における、施設(温室・パイプハウス等)栽培面積の割合		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・収益性の高い経営の一つとして施設栽培を重視しており、理解できる指標である。 ・ただし、と同様に、割合で示すと農地面積が減っても目標が達成される点が懸念される。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴		
オ) 総合				
目標の妥当性		・これまでの推移と比較して、理解できる水準である。 ・新規の指標であるため、15年度までの目標値は「-」となるはず。		
実績値の妥当性				
指標				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特徴			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
実績値の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		-	・新規の指標であり、判断できない。	

{評価} : 〇: 良好(重要) : 〃: やや疑問(あまり重要でない) ×: 問題あり(重要でない) - : 該当なし

(3) 経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		・記載されている。
イ)記載内容の正確性		・判断は困難。
(4) 評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	・新規の指標であるが、実績値の推移などから現状を評価しており、妥当と考えられる。
	イ)判断理由の妥当性	
	ウ)その他	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	・経費が年々増加しているにもかかわらず成果が上がっていないため、Bという評価は妥当と考えられる。
	イ)判断理由の妥当性	・施策全体の経費についての説明もほしい。特に経費の大きい事務事業に絞って分析しているのであれば、その旨が説明してあるとよい。
	ウ)その他	-
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	・理解できる。ただし、後半の記述は外部要因にあたる。
	外部要因 記載内容の妥当性	・内部要因の後半にあるように、農地の縮小や高齢化こそが、成果が上がらない根本的な要因なのではないか。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。
	イ)判断理由の妥当性	・妥当である。
	ウ)その他	-
(5) 改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。
	イ)説明の妥当性	・妥当である。
本年度	ア)評価結果との関連性	・外部要因として、都・区の補助金が継続して確立していないことがあげられている。その点に対する対策が必要ではないか。
	イ)内容の具体性	・ については、どうやって施設栽培面積の拡大を図るのか、具体策を検討のうえで記載してほしい。
	ウ)その他	-
(6) その他		
その他		・施策対象である練馬区の農家の多くが、本当に農業収入の安定と収益性の高い農業を目指しているのかは、検証する必要がある。

〔評価〕 ○：妥当（問題なし） △：やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×：妥当性を欠く（問題あり） -：該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		544 農とのふれあいの推進		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・「農業への理解が深まっている」という表現が、何を指すのかがわかりにくい。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	農業体験農園応募倍率		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質		・直接的に施策の成果を反映しているかは疑問であるが、間接的に区民の農業への関心度を測定する指標といえる。	
	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特性			
	オ) 総合			
	目標の妥当性		・過去の実績値と比較すると、概ね妥当と考えられる。	
	実績値の妥当性			
	指標	野菜ウォークラリーの応募倍率		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質		・直接的に施策の成果を反映しているかは疑問であるが、間接的に区民の農業への関心度を測定する指標といえる。	
	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
ウ) 重要性				
エ) 区の特性				
オ) 総合				
目標の妥当性		・過去の実績値と比較すると、概ね妥当と考えられる。		
実績値の妥当性				
指標				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質				
ア) 成果の反映				
イ) わかりやすさ				
ウ) 重要性				
エ) 区の特性				
オ) 総合				
目標の妥当性				
実績値の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
			・可能であれば、区民の農業への理解度を表す指標がほしい。区民意識調査などの結果を活用できないか。例えば、「練馬区にとって農業が重要な産業であるとする区民の割合」、「この1年間で練馬の農業と触れ合う(農作業を体験するなど)機会を持った区民の割合など。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		-	・新規の指標であり、判断できない。 ・目標値に関係なく指標の変化を見るならば、両指標とも改善の方向に向かっている。	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3) 経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		・記載されている。
イ)記載内容の正確性		・判断が困難。
(4) 評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	・新規の指標であるため、実績値をもとに評価しており、概ね妥当と考えられる。
	イ)判断理由の妥当性	・指標とした2事業が良好なのは理解できるが、市民農園など他の事務事業の動向も考慮して評価すべきではないか。
	ウ)その他	-
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	・成果、経費ともに増加しており、経費の増加に見合った成果向上であったかの検証が必要。
	イ)判断理由の妥当性	× ・経費の内訳だけでなく、成果と経費を比較した分析が必要。 ・は利用者(区民)にとっての負担を説明しているが、この欄では区にとっての経費について記述すべき。
	ウ)その他	-
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	・施策のよい面だけでなく、問題点がないかも分析すべき。
	外部要因 記載内容の妥当性	・概ね妥当と考えられるが、マイナスの外部要因がないかも分析すべき。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	・成果と経費の比較の評価が、妥当といえるのか疑問がある。
	イ)判断理由の妥当性	・全体に、成果の上がっている一部の事務事業の説明が中心となっており、施策全体の評価になっていないのではないか。
	ウ)その他	-
(5) 改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	・一部事業での改善達成が説明されており、Bの評価は妥当と考えられる。
	イ)説明の妥当性	・ももとの改革改善案が具体的に書かれていないため、進捗状況との対応関係がわかりにくい。 ・管理運営費補助金については、成果と経費の比較など別の欄でも言及が必要なのではないか。
本年度	ア)評価結果との関連性	・施策が良好に進んでいるという評価を踏まえ、現行の事務事業の小幅な見直しを掲げている。評価結果が妥当であるならば、理解できるものである。
	イ)内容の具体性	・、とも検討すると書いているが、検討の結果の具体的な改革・改善案を記載すべき。できないのであれば、いつまでにどのような検討を行うかを書くべき。
	ウ)その他	-
(6) その他		
その他		

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		611 参加と協働のシステムづくり		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・「参加」と「協働」の定義が明確になると、なおよい。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	審議会等委員の区民公募率		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映	-	・「参加」の側面の指標として妥当である。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特性		
		オ) 総合		
	目標の妥当性		・どの程度が目指すべき水準なのかは、判断しがたい。	
	実績値の妥当性			
	指標			
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特性		
		オ) 総合		
	目標の妥当性			
	実績値の妥当性			
	指標			
	視点	評価	コメント・改善点	
指標の性質	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特性			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
実績値の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
		×	・「参加」の側面の指標に加え、「協働」に関する指標が必要。区民公募率のみを施策の成果指標とするのは局所的すぎ、この指標だけで施策の成果を測るのは無理がある。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		×	・目標値に達していない。	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3) 経費・財源について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
ア)必要事項は記載されているか		・記載されている。	
イ)記載内容の正確性		・判断は困難。	
(4) 評価について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
成果	ア)評価区分の妥当性	・「参加」の側面については、指標が目標値に達していないため、Bという評価は妥当と考えられる。ただし、「協働」の側面については指標がないため、定性的な評価で補ったうえで総合的な評価区分を決めるべき。	
	イ)判断理由の妥当性		
	ウ)その他		-
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	×	・経費が前回より増加しているにもかかわらず、成果は上がっていない。
	イ)判断理由の妥当性		・記載内容は理解できるが、施策全体の成果と経費を比較するべき。
	ウ)その他	-	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性		・「参加」の側面については、指標に影響を与えた特殊要因を説明しており、納得できる。 ・「協働」の側面についての要因分析も必要。改革・改善案やこれまでの部会の検討をもとに判断すると、事務事業展開に不十分な点があるのではないかと。
	外部要因 記載内容の妥当性		・指標は、行政内部の決定だけで決まるものであり、外部要因に該当する要素はないのではないかと。(ただし、このような分析を参考として含めることを妨げるものではない)
総合評価	ア)評価区分の妥当性		・成果の評価、成果と経費の評価に疑問がある。
	イ)判断理由の妥当性	×	・全体に、「協働」の側面についての分析がなく、施策全体を評価していない。 ・の調査・研究については、成果や内部要因の欄でも言及すべきではないかと。
	ウ)その他	-	
(5) 改革・改善案について			
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点	
前回	ア)評価区分の妥当性		・改革・改善案の実施は目に見えて進んでおらず、Cの評価が妥当である。
	イ)説明の妥当性		・については、検討の結果を記載すべき。
本年度	ア)評価結果との関連性	×	・成果の評価が「参加」の側面中心であるのに対し、改革・改善案は「協働」の側面中心でズレがある。本来は、両方に「参加」、「協働」の両側面の記載があるべきではないかと。
	イ)内容の具体性		・具体的なものとなっている。
	ウ)その他	-	
(6) その他			
その他			

〔評価〕 : 妥当(問題なし) : やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×: 妥当性を欠く(問題あり) -: 該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		633 健全な財政運営と財政権の拡充		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・前回より具体的な表現となっている。		
イ) 目指す状態は明確か				
ウ) その他				
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標	経常収支比率		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・指標の意味合いがわかりにくい。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴	-	
		オ) 総合		
	目標の妥当性		・目標値は講学的に妥当とされる水準となっている。	
	実績値の妥当性			
	指標	区民1人当たりの連結負債額		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・客観的で、経年変化や他区との比較が容易という点は評価できる。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴	-	
オ) 総合				
目標の妥当性		・他区との比較で目標値を設定しており、理解できる。		
実績値の妥当性				
指標	特別区税・国民健康保険料の滞納額			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映		・区の収入の一側面を表す指標である。収入に占める割合は小さいが、重要であり、わかりやすい。 ・過年度の滞納額を含む累計額なのか、年度ごとの滞納額なのか不明。	
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特徴	-		
	オ) 総合			
目標の妥当性		・100億円というのが、累計なのか1年あたりの金額なのかによって目標値の評価は変わってくる。累計であれば、現行水準と比較して妥当な水準と考えられる。		
実績値の妥当性		・記載されている。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
			・重要な側面が指標化されており、妥当である。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		・前回から継続している指標 については、減少が目標であるのに増加している。 ・指標 、 は新規であるが、数値は改善している。		

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		・記載されている
イ)記載内容の正確性		・判断は困難。
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	・指標 と指標 は新規であるため、過去の実績値と比較した評価を行っており、理解できる。
	イ)判断理由の妥当性	・指標 が悪化、指標 と指標 が改善という状況でBと評価したのは、指標 を中心的な指標と捉えているためと考えられる。その点の説明があるとなおよい。
	ウ)その他	-
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	・記載内容からは、より少ない経費で成果が上がっていることがわかり、妥当である。
	イ)判断理由の妥当性	・成果と経費の関係を丁寧に説明している。特に指標 、 が経費と直接関係ないことが説明されており、わかりやすい。
	ウ)その他	-
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	・妥当な記述である。
	外部要因 記載内容の妥当性	・妥当な記述である。扶助費増加の要因(構造的なものかどうかなど)が説明されているとなおよい。
総合評価	ア)評価区分の妥当性	・区の努力を上回る外部要因があることから総合評価をBとしており、理解できる。
	イ)判断理由の妥当性	
	ウ)その他	
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。
	イ)説明の妥当性	・妥当である。
本年度	ア)評価結果との関連性	・妥当である。
	イ)内容の具体性	・具体的に目指す方向が明らかにされており、妥当である。
	ウ)その他	-
(6)その他		
その他		

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価結果・検討表(役割2)

施策名		636 職員の能力開発と意識改革		
(1) 施策の目指す状態について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
ア) 施策の目指す状態は良いか		・役割1の指摘を踏まえて修正いただいた。区の人材育成ビジョンと連動しており、妥当である。		
イ) 目指す状態は明確か		・「区の組織目標を達成するために、区民とともに考え、行動する職員」という表現は、やや冗長かもしれない。本来、組織目標が適切に設定されていれば、他の要素も含まれるはずである。		
ウ) その他	-			
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標		自らの能力開発に前向きな職員の割合	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・可能であれば、この指標のように職員の意識調査を用いるのではなく、行動に表れた成果を把握すべき。義務付けられた研修に加えて自己啓発を行っているか、区民の方を向いた活動を行なっているかなど。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴	-	
		オ) 総合		
	目標の妥当性		・設問には「どちらでもない」という選択肢があるため、75%という最終目標値は高いのではないかと。 ・指標の水準があがるほど、さらなる向上は難しくなるはず。尻上がりの目標設定は無理がある。	
	実績値の妥当性			
	指標		仕事にやりがいを感じている職員の割合	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 成果の反映		・意識意向調査で「仕事にやりがいを感じており、満足している」と答えた職員の割合を用いているが、やりがいを感じることに満足することは必ずしもイコールではないため、「仕事にやりがいを感じている」で切ったほうがよいのではないかと。
		イ) わかりやすさ		
		ウ) 重要性		
		エ) 区の特徴	-	
オ) 総合				
目標の妥当性		・設問には「どちらでもない」という選択肢があるため、75%という最終目標値は高いのではないかと。 ・指標の水準があがるほど、さらなる向上は難しくなるはず。尻上がりの目標設定は無理がある。		
実績値の妥当性				
指標				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 成果の反映			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 重要性			
	エ) 区の特徴			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
実績値の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
			・指標、は、意識改革に関する指標である。組織目標の達成や業務改善に直接つながる指標を追加してはどうか。また、「区民とともに考える」という部分に対応する指標があっても良い。意識意向調査には、関連する質問がすでにある。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
			・新規設定の指標であり、目標値が設定されていなかったため判断しがたい。 ・「どちらでもない」という選択肢がある5択であることを考えると、現行水準は必ずしも低いわけではない。ただし、区民から見ると、さらに増加することが望ましい。他の自治体と比較できれば現水準の妥当性も議論しやすいが、これらの指標の場合は難しい。	

〔評価〕 : 〇: 良好 (重要) : 〇: やや疑問 (あまり重要でない) : ×: 問題あり (重要でない) : - : 該当なし

(3)経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア)必要事項は記載されているか		・記載されている。
イ)記載内容の正確性		・15年度から経費の計算方法が変わり、大幅増になっている。事務事業評価表では前の年度の実績も新しい計算方法に直して比較可能な数値を出しているが、施策評価表ではそのままになっており、ズレがある。
(4)評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア)評価区分の妥当性	・主管課の説明から判断すると、妥当と考えられる。
	イ)判断理由の妥当性	・成果指標に対応した記述が必要。たとえ新しい指標で目標値がなかったとしても、現行水準が高いか低いかを分析すべき。 ・主管課によれば、これまでは職員の能力開発や成果主義に基づく意識改革については、組織的・計画的な取組とはいえない状況にあり、人材育成ビジョン策定を機に新しい取組を始めたところであるとのこと。この説明内容は理解できたが、記載内容だけではわかりにくい。
	ウ)その他	-
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	・判断は困難。
	イ)判断理由の妥当性	× ・研修事業は本施策の一部であり、施策の経費全体を説明していない。 ・経費の使途が適切であることは重要であるが、この欄では、経費と成果を比較した説明が必要。 ・経費が大幅に増加した理由を書くべき。特に、15年度は積算根拠が変わっており、その点を説明すべき。
	ウ)その他	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	・背景として重要なのは、能力開発を自ら行なうことが職務や自己の評価に結びつかないことではないか。業績主義の導入など人事制度の構築が課題と考えられる。
	外部要因 記載内容の妥当性	・根本的な外部要因として、人事に関する特別区の自主権限が小さく、上記のような制度構築ができないという問題がある。(ただし、都による縛りは、区が外そうと思えば外せるはずなので、内部要因と考えることもできる。)
総合評価	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。
	イ)判断理由の妥当性	・新たな取組がまだ展開されていない状況であることが説明されており、理解できる。
	ウ)その他	-
(5)改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
前回	ア)評価区分の妥当性	・妥当である。
	イ)説明の妥当性	・妥当である。
本年度	ア)評価結果との関連性	・については、今後の施策展開が人材育成実施計画の策定・実施にかかっていることを考えると妥当である。 ・については、評価結果との関連が薄い。事業部制がどう能力開発に関係するのかの説明が必要。また、評価の欄でも事業部制に触れておくべきではないか。
	イ)内容の具体性	・に関する説明が足りない。事業部制で人材育成についても各事業部の責任が大きくなるという点がわかるように記述してほしい。
	ウ)その他	-

(6)その他

その他	<p>【評価のあり方について】</p> <ul style="list-style-type: none">・事務事業のくり方に問題があり、階層のつながりがわかりにくい。事務事業の「人事事務」は、抽象的であり、くりが大きすぎる。「人事事務」と「職員報の発行」は、あまりに大きさが違い、同じ事務事業とするのは問題がある。・評価をどう活用するか(予算、人員配置など)によって、くりの大きさも変わってくる。・各事務事業の評価が良いのに、施策の評価が悪いのはおかしいのではないか。・「社会経済状況・区民ニーズ」の欄は、この施策の場合、外部の状況よりも庁内の状況を説明すべきではないか。職員の意欲が低いなど。・新規の指標で事前に目標設定がなされていない場合の「成果」の評価方法については、再検討が必要ではないか。・行政の課題の公表については、行政評価に加え、グリーンペーパーの活用を検討してはどうか。 <p>【施策の現状について】</p> <ul style="list-style-type: none">・指標 では、主任・主事(30代、40代)にやりがいを感じていない層が多く、課題がある。このようなデータの内訳を分析することも重要。・練馬区ならではの職員マインドというものを持ってもらいたい。松戸市の「なんでもすぐやる」など。・職員報の発行については、あり方を見直す時期に来ているのではないか。
-----	---

【評価】 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

